

## 5. 発達障がい者支援センター(エルムおおさか)利用者調査 調査結果

### (1) 調査対象者の属性

#### ① 居住区

図表 問1(1) 居住区(SA)

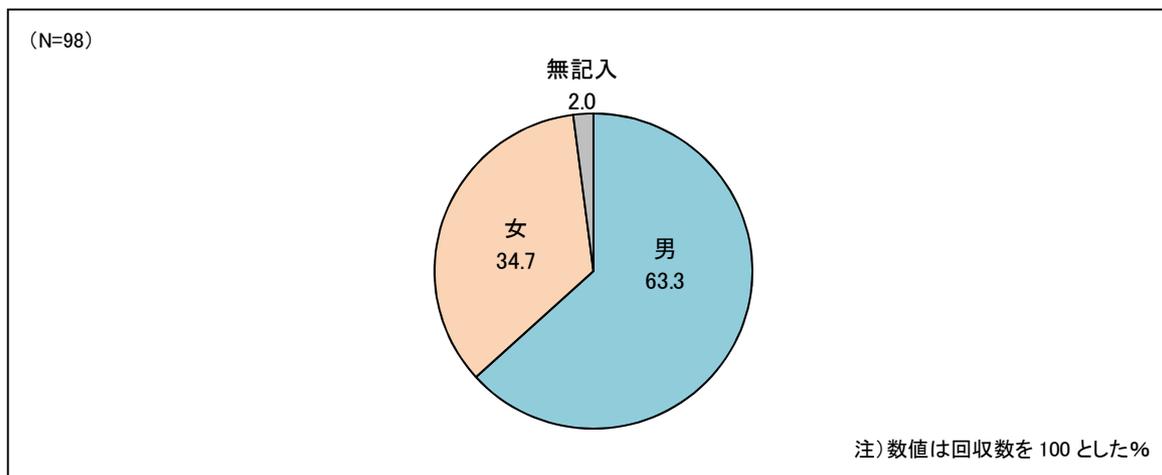
(N=98)

北区	都島区	福島区	此花区	中央区	西区	港区	大正区	天王寺区	浪速区	西淀川区	淀川区	東淀川区	東成区	生野区	旭区	城東区	鶴見区	阿倍野区	住之江区	住吉区	東住吉区	平野区	西成区	無記入
0.0	5.1	2.0	2.0	6.1	1.0	0.0	3.1	3.1	0.0	1.0	2.0	7.1	1.0	8.2	3.1	4.1	1.0	4.1	5.1	4.1	10.2	17.3	6.1	3.1

注)数値は回収数を100とした%

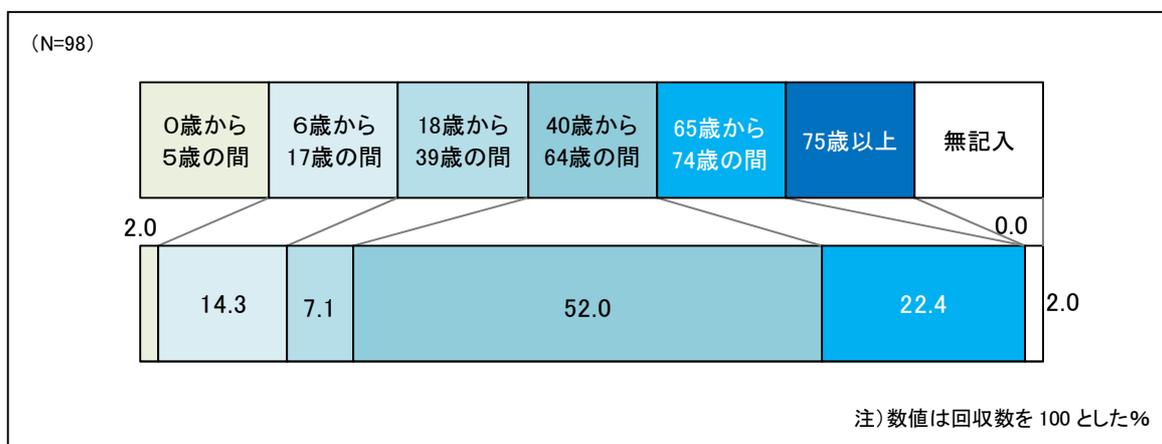
#### ② 性別

図表 問1(2) 性別(SA)



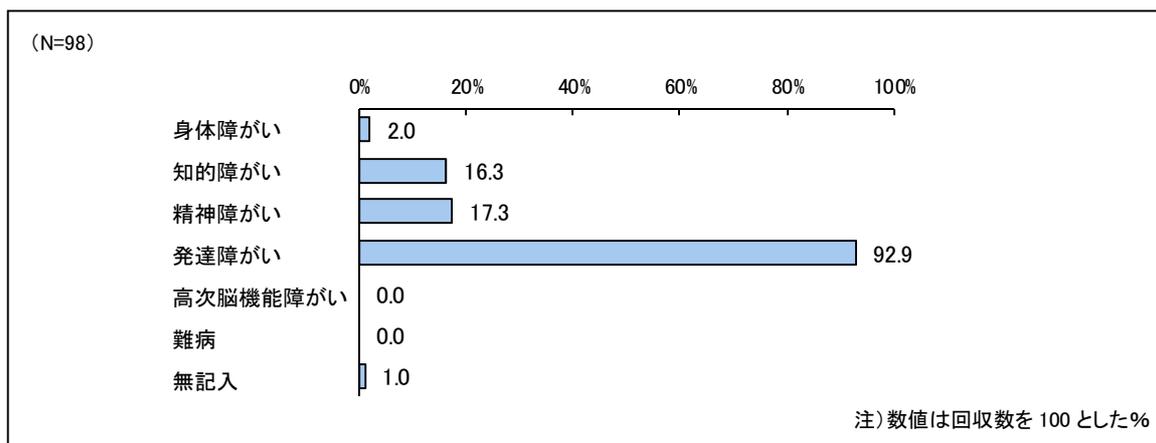
#### ③ 年齢

図表 問1(3) 年齢(SA)



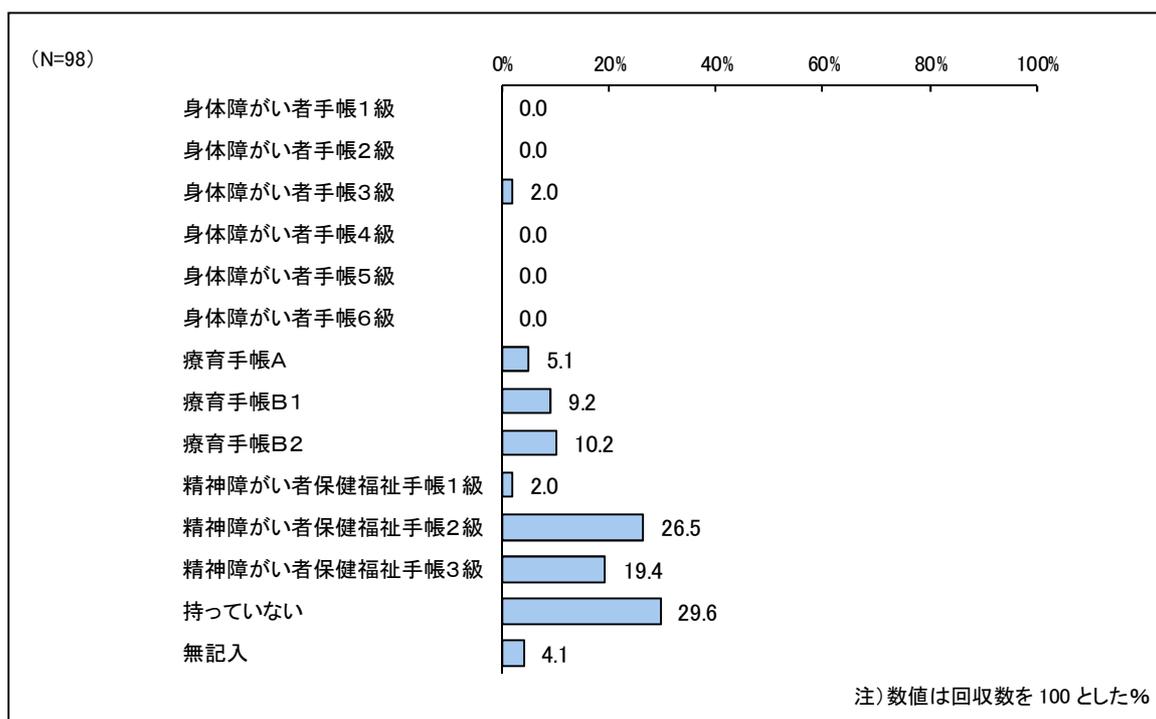
#### ④ 障がいの種類

図表 問1(4) 障がいの種類(MA)



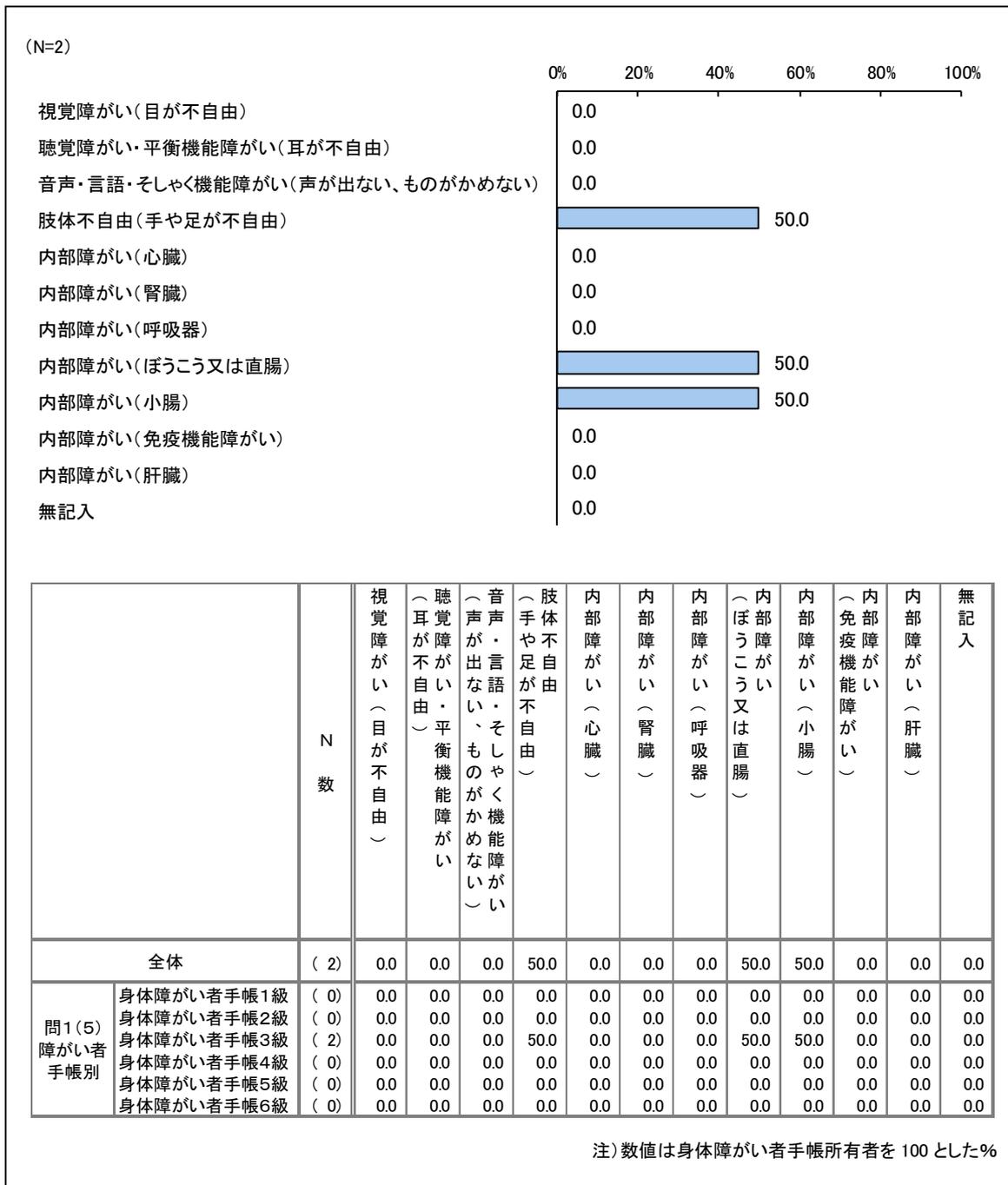
#### ⑤ 障がい者手帳の種類・等級

図表 問1(5) 障がい者手帳の種類・等級(MA)



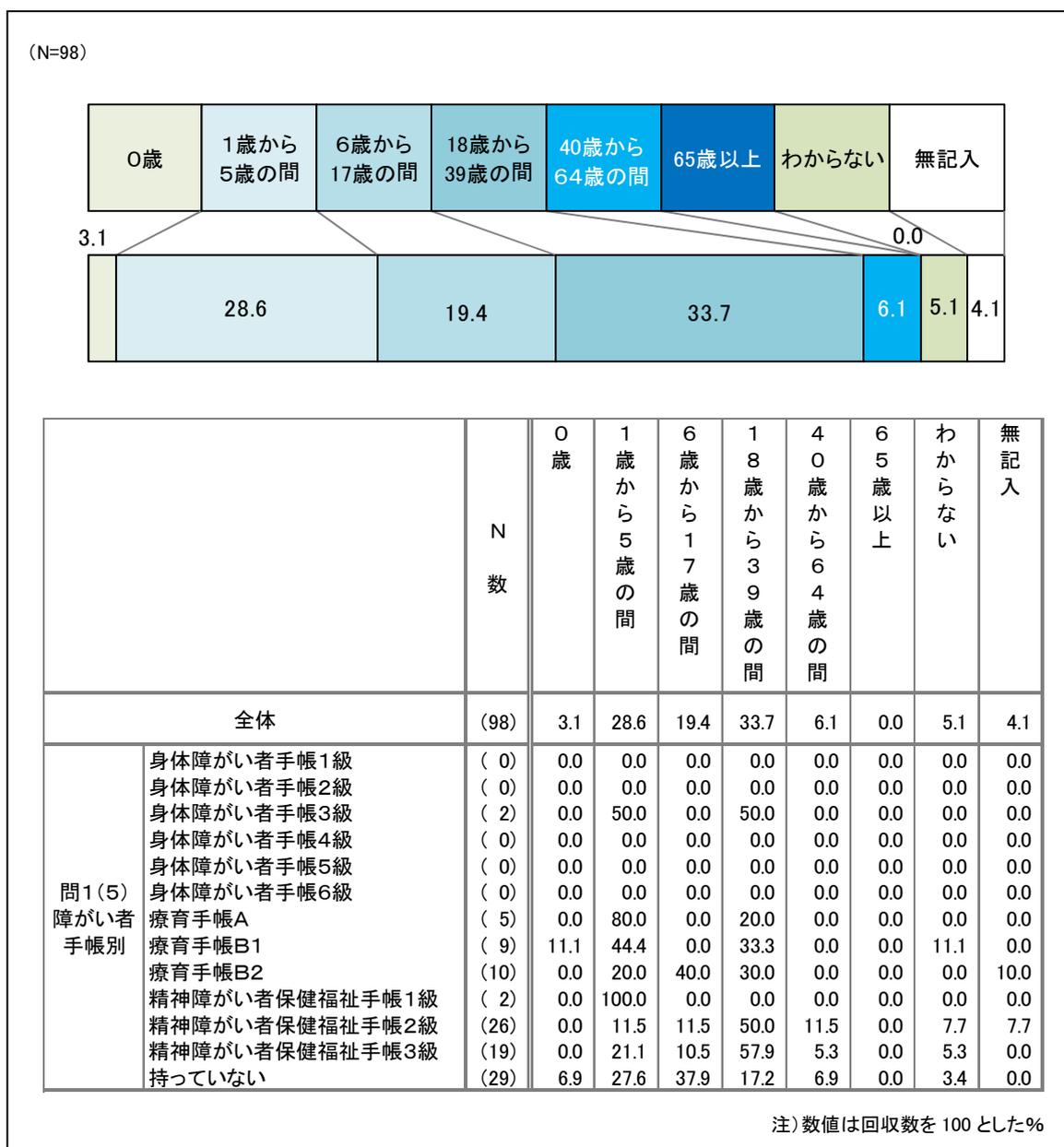
⑥ 障がいの種類(部位)

図表 問1(6) 障がいの種類(部位)(MA)



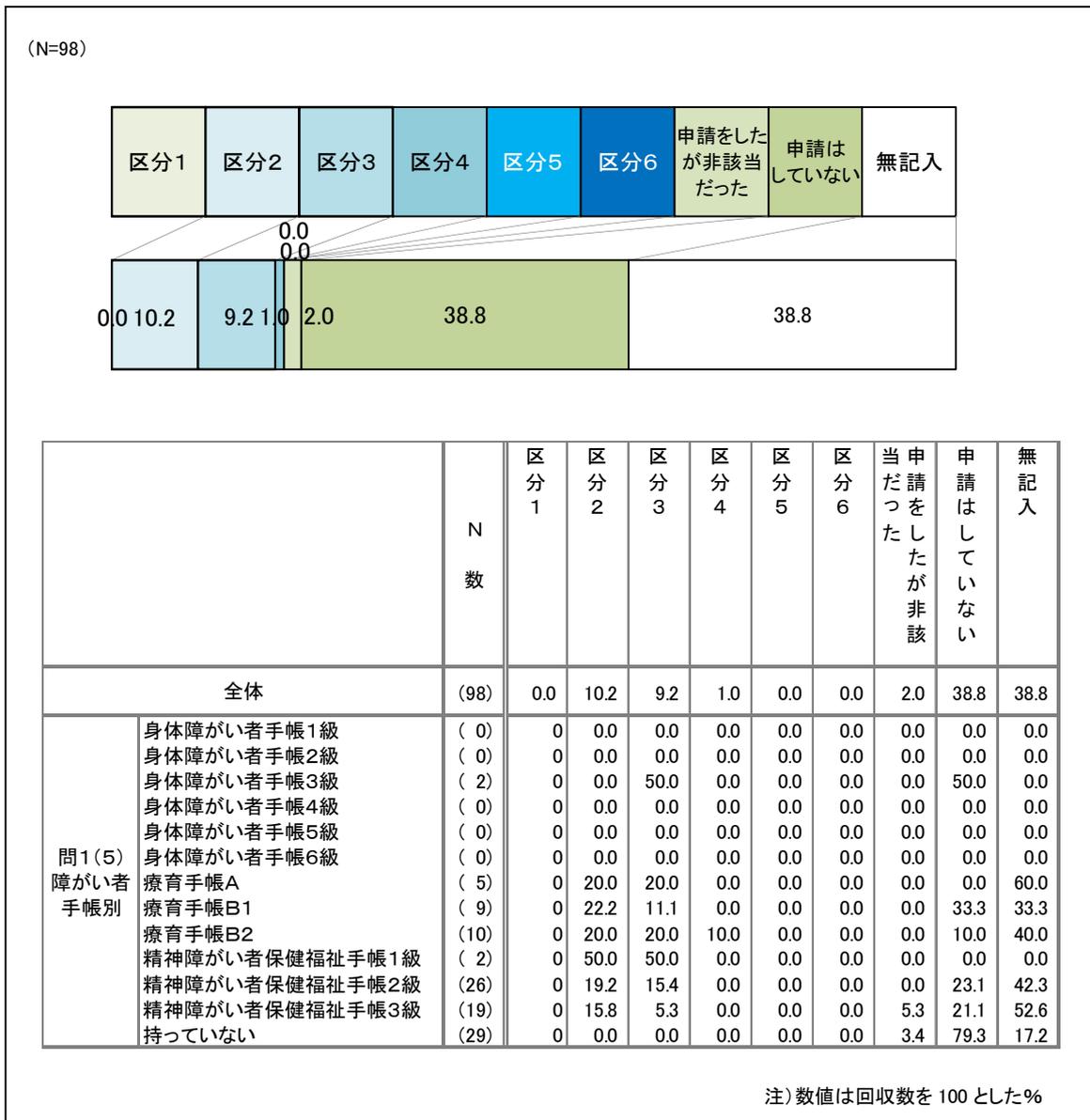
⑦ 障がいの発生(気づいた)時期

図表 問1(7) 障がいの発生(気づいた)時期(SA)



⑧ 障がい程度区分

図表 問1(8) 障がい程度区分(SA)



## (2) 障がい福祉に関するサービスについて

### ① 利用している障がい福祉サービス

「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」(48.0%)が最も多く、次いで、「自立支援医療(精神通院)」(32.7%)、「相談支援(計画相談支援・地域相談支援・障がい児相談支援)」(22.4%)が多い。

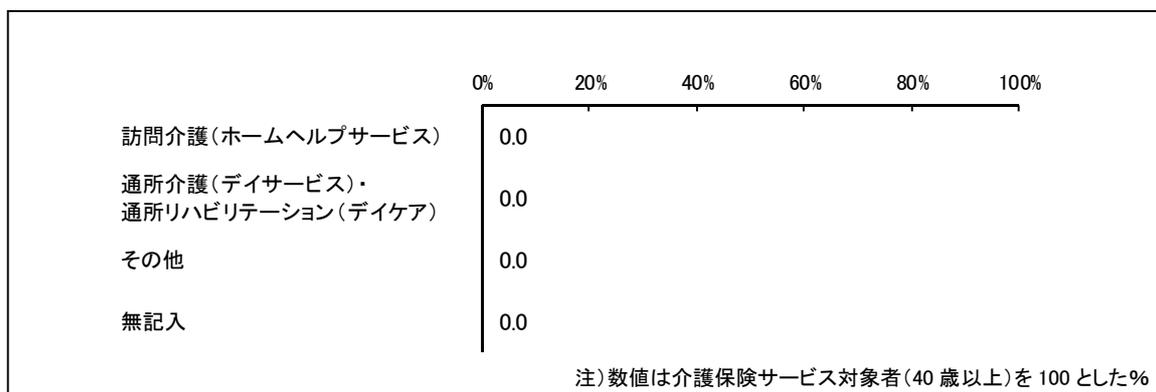
図表 問2(1) 利用している障がい福祉サービス(MA)



## ② 利用している介護保険サービス

回答なし。

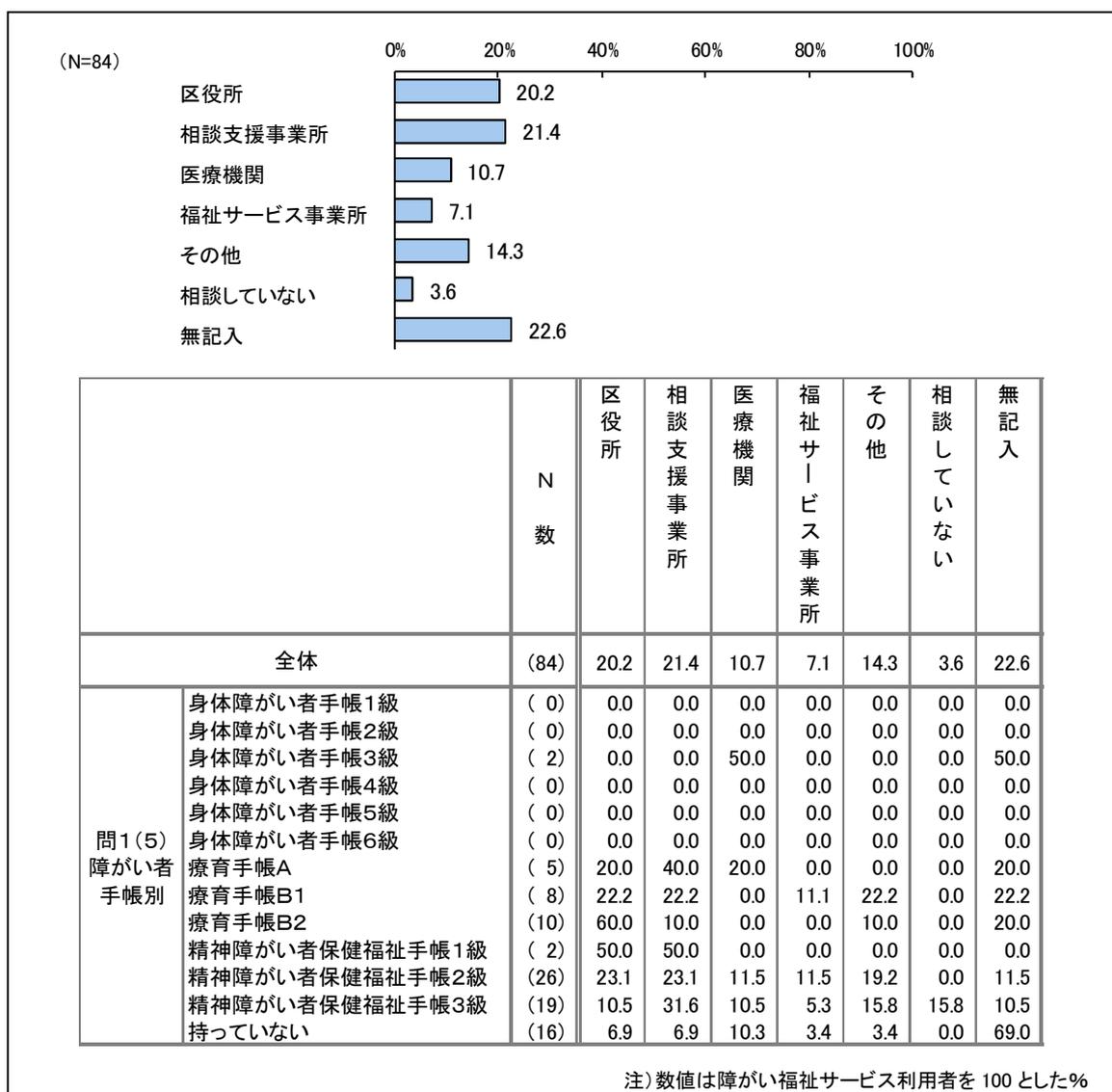
図表 問 2(2) 利用している介護保険サービス(MA)



## ③ 障がい福祉に関するサービス利用にあたっての主な相談先

「相談支援事業所」(21.4%)、「区役所」(20.2%)が2割台が多い。

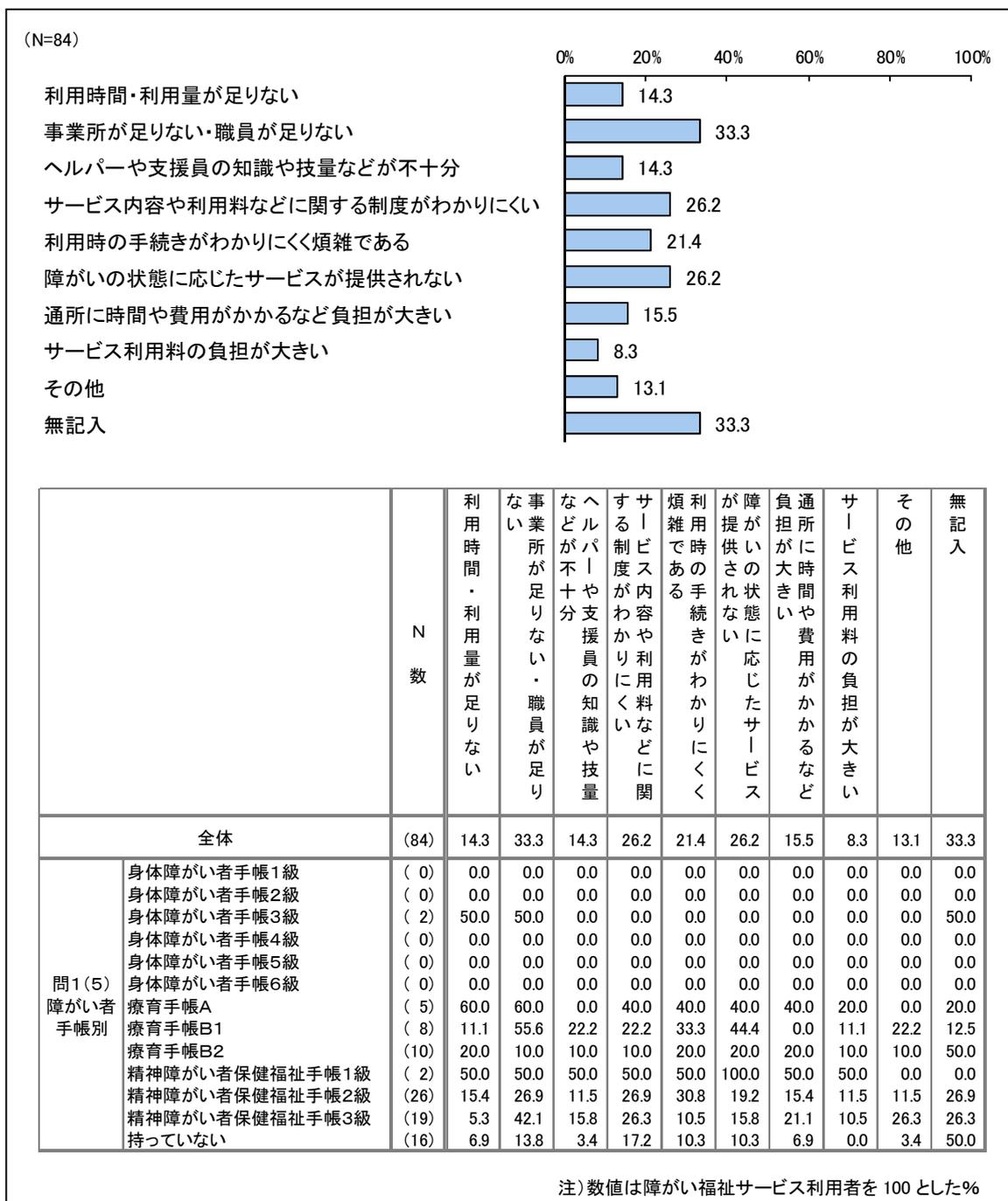
図表 問 2(3) 障がい福祉に関するサービス利用にあたっての主な相談先(MA)



#### ④ 障がい福祉に関するサービスを利用しているの問題点

「事業所が足りない・職員が足りない」(33.3%)が最も多く、次いで、「サービス内容や利用料などに関する制度がわかりにくい」「障がいの状態に応じたサービスが提供されない」(各 26.2%)が多い。

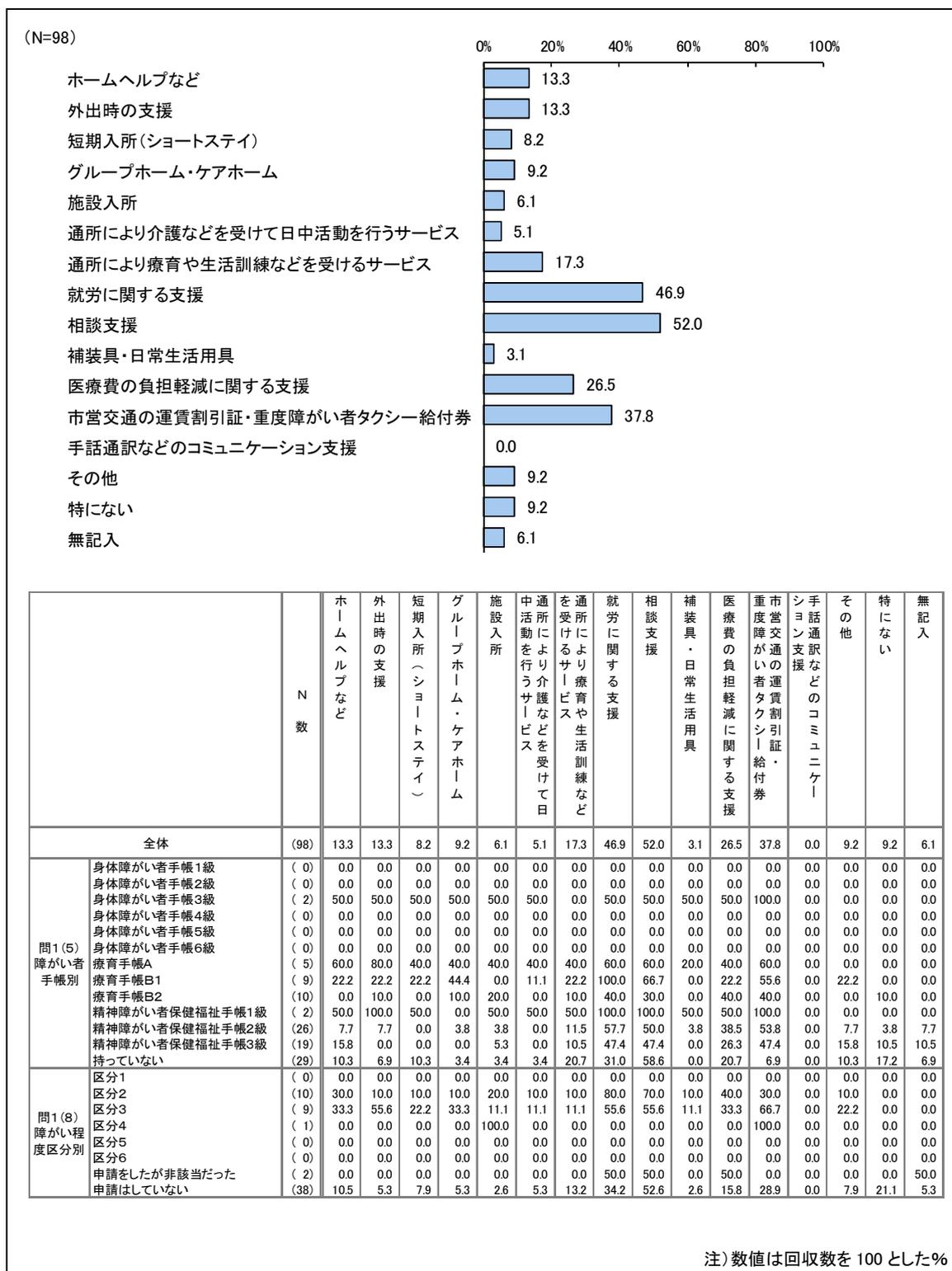
図表 問2(4) 障がい福祉に関するサービスを利用しているの問題点(MA)



⑤ 今後利用したいと思う障がい福祉サービス

「相談支援」(52.0%)が最も多く、次いで、「就労に関する支援」(46.9%)、「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」(37.8%)、「医療費の負担軽減に関する支援」(26.5%)が多い。

図表 問2(5)今後利用したいと思う障がい福祉サービス(MA)



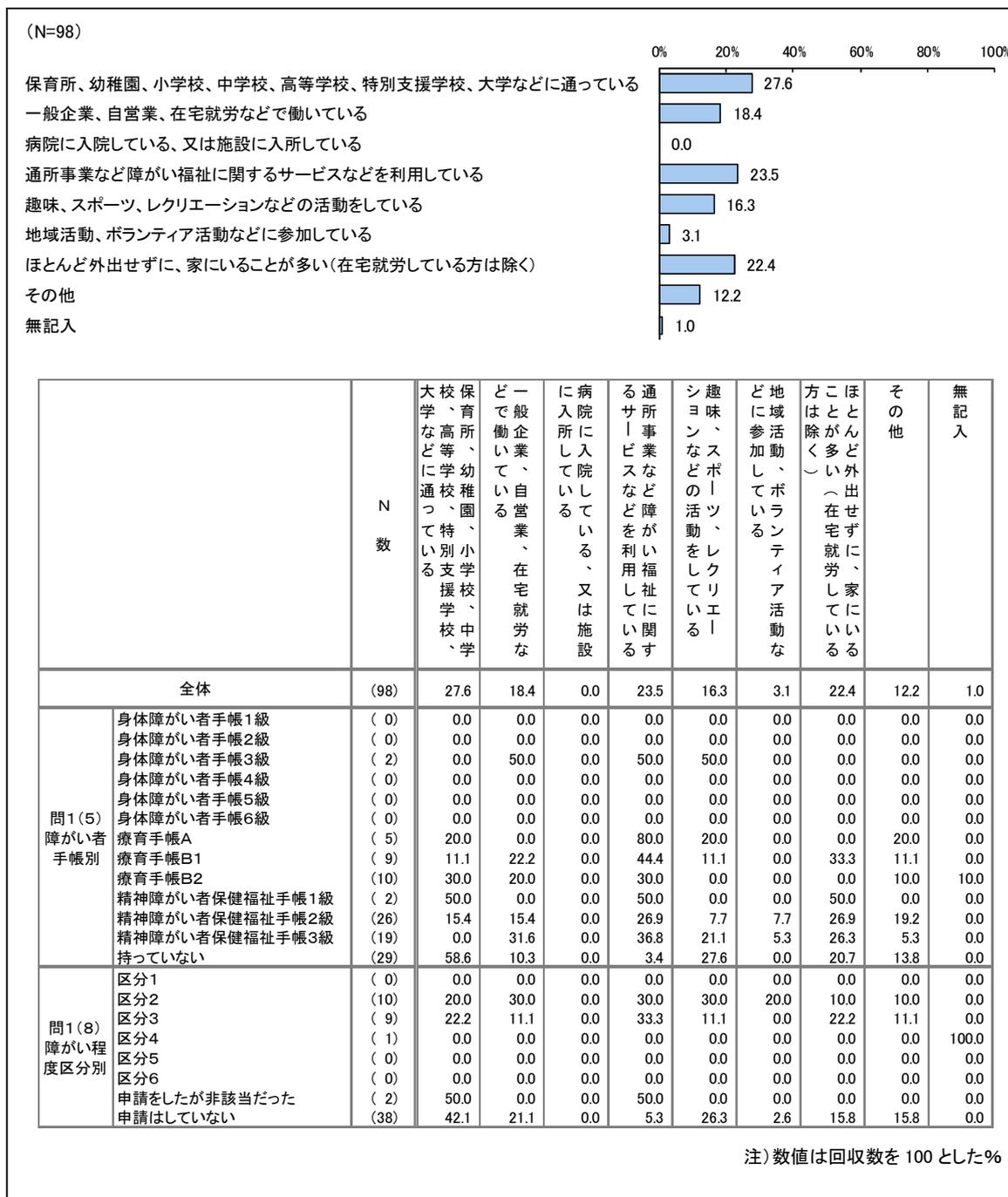
注) 数値は回収数を100とした%

### (3) 日常生活や社会参加について

#### ① 日中の主な活動

「保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学などに通っている」(27.6%)が最も多く、次いで、「通所事業など障がい福祉に関するサービスなどを利用している」(23.5%)、「ほとんど外出せずに、家にいることが多い(在宅就労している方は除く)」(22.4%)が多い。

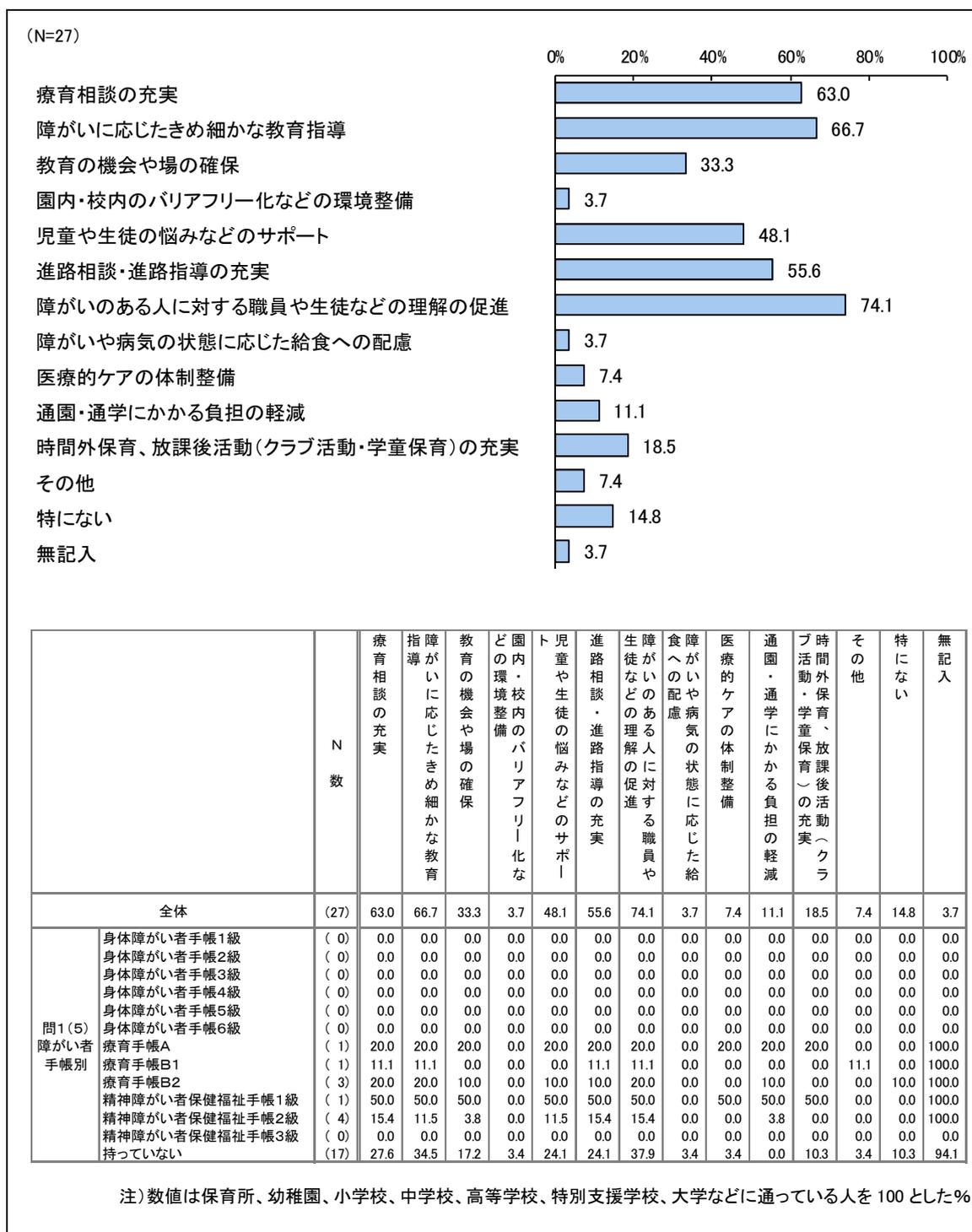
図表 問3(1) 日中の主な活動(MA)



## ② 保育や教育で充実してほしいこと

「障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進」(74.1%)で最も多く、以下、「障がいに応じたきめ細かな教育指導」(66.7%)、「教育相談の充実」(63.0%)が6割台、「進路相談・進路指導の充実」(55.6%)が5割台で続く。

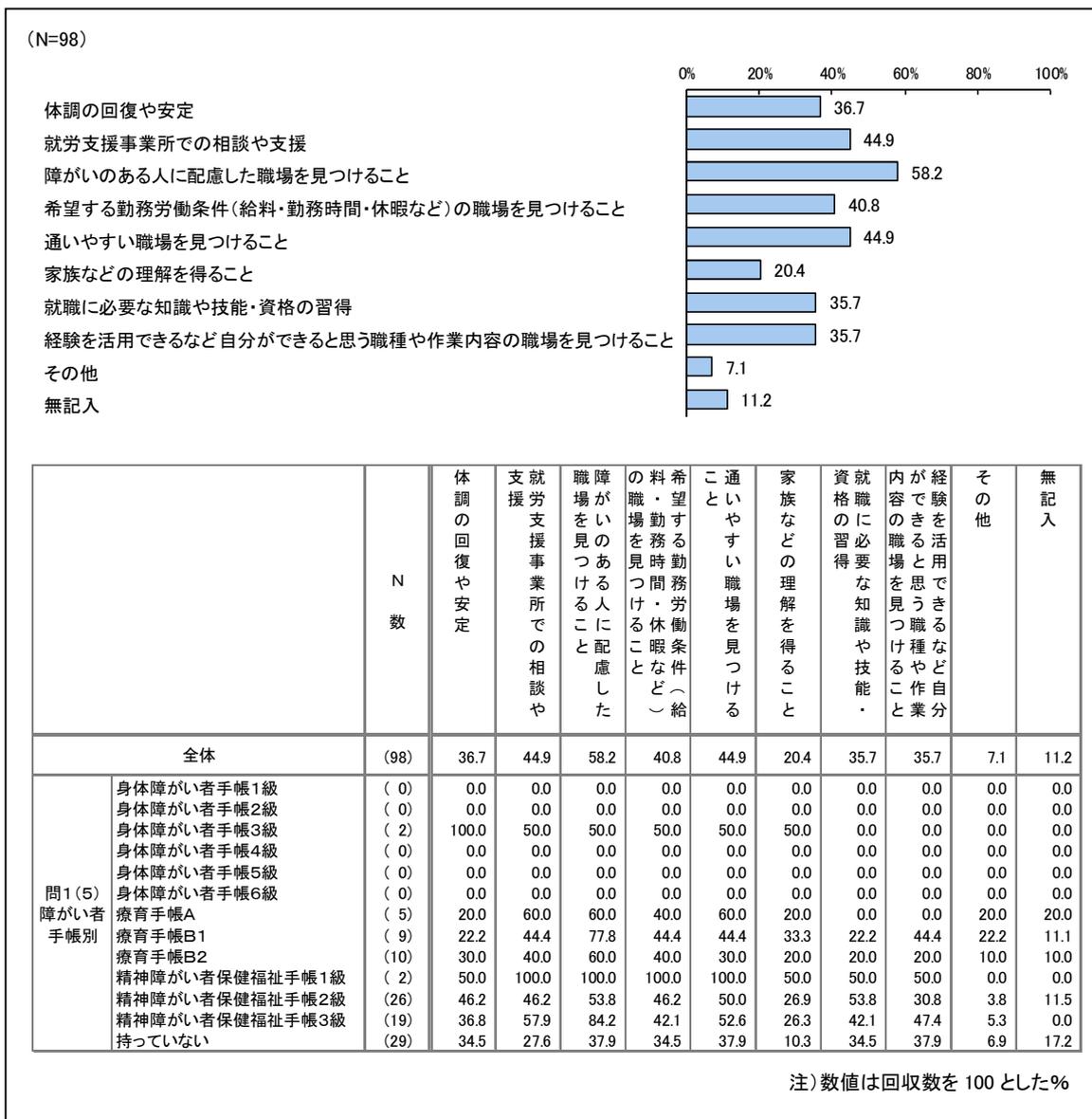
図表 問3(2) 保育や教育で充実してほしいこと(MA)



### ③ 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと

「障がいのある人に配慮した職場を見つけること」(58.2%)が最も多く、以下、「就労支援事業所での相談や支援」「通いやすい職場を見つけること」(各 44.9%)、「希望する勤務労働条件(給料・勤務時間・休暇など)の職場を見つけること」(40.8%)が 4 割台で続く。

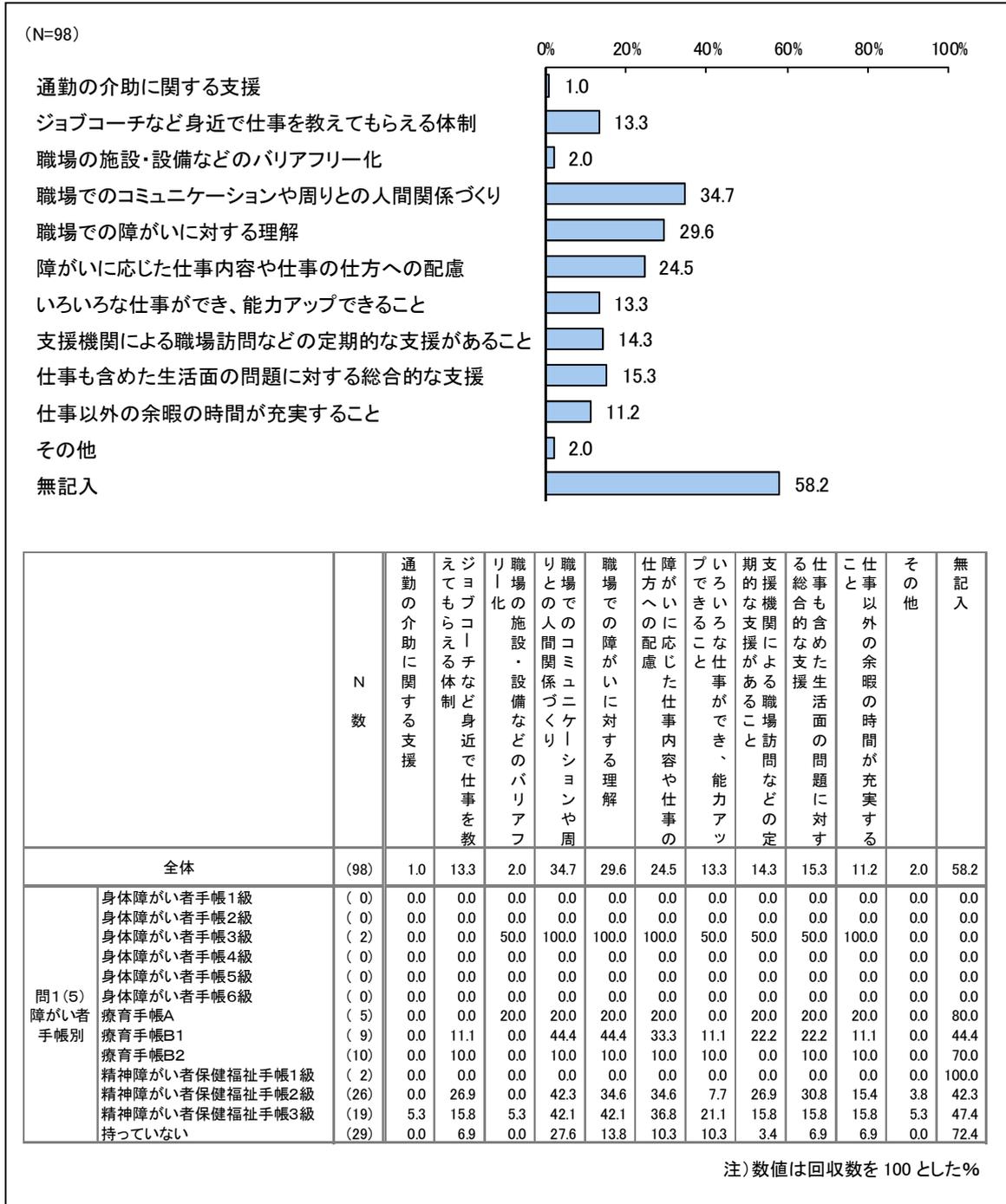
図表 問 3(3) 一般就労につながったと思うこと、必要だと思うこと(MA)



④ 働き続けるために必要と思うこと

「職場でのコミュニケーションや周りとの人間関係づくり」(34.7%)が最も多く、次いで、「職場での障がいに対する理解」(29.6%)、「障がいに応じた仕事内容や仕事の仕方への配慮」(24.5%)が多い。

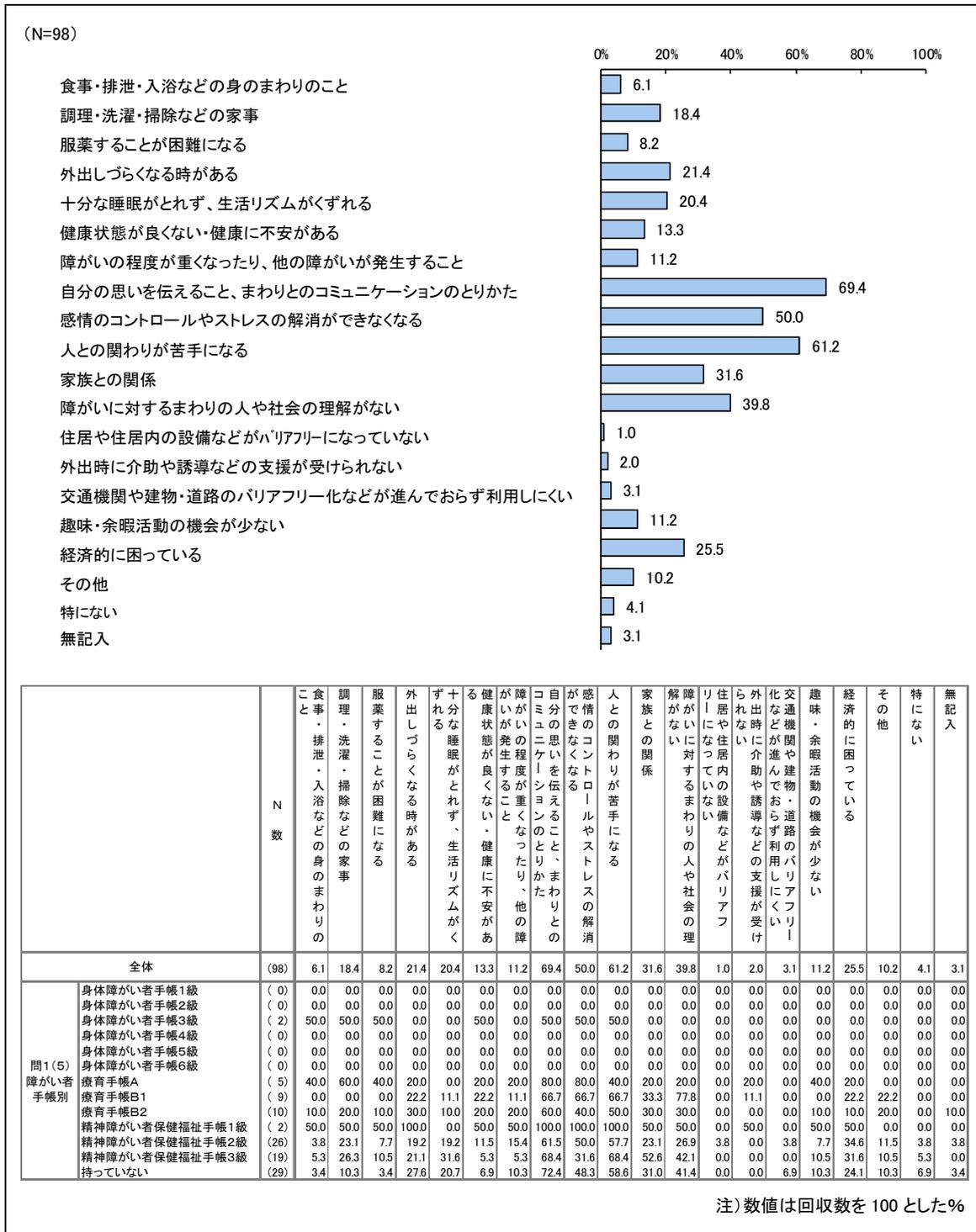
図表 問3(4) 働き続けるために必要と思うこと(MA)



⑤ 日常生活で障がいによって困っていること

「自分の思いを伝えること、まわりとのコミュニケーションのとりかた」(69.4%)が最も多く、次いで、「人との関わりが苦手になる」(61.2%)、「感情のコントロールやストレスの解消ができなくなる」(50.0%)が多い。

図表 問3(5) 日常生活で障がいによって困っていること(MA)

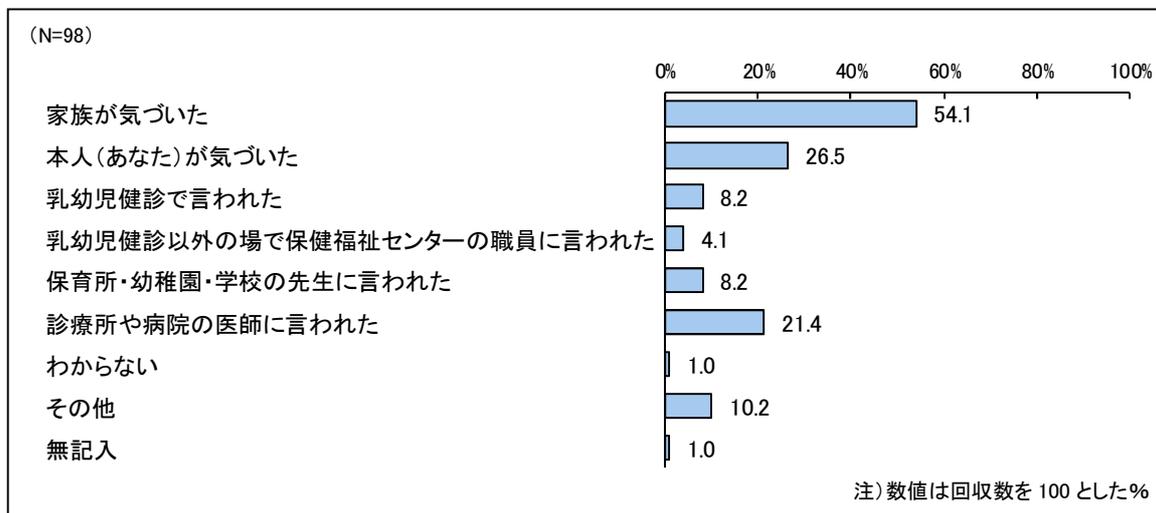


#### (4) 発達障がいについて

##### ① 発達障がいと気づいたのは誰か

「家族が気づいた」(54.1%)が最も多く、次いで、「本人が気づいた」(26.5%)、「診療所や病院の医師に言われた」(21.4%)が多い。

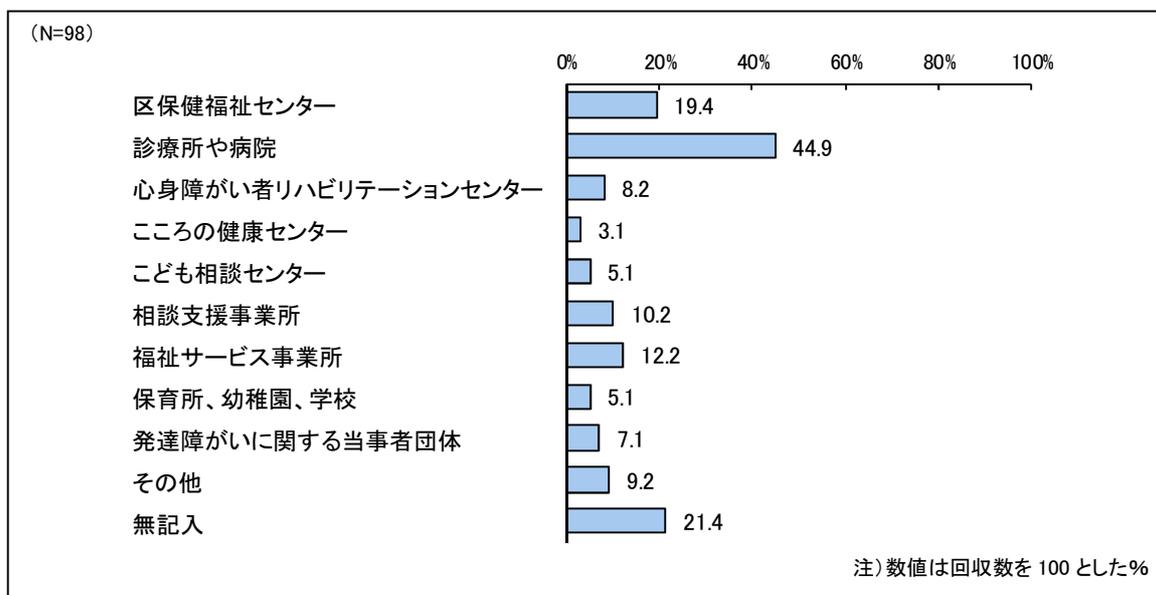
図表 問4(1) 発達障がいと気づいたのは誰か(MA)



##### ② 大阪市発達障がい者支援センター(エルムおおさか)以外の相談先

「診療所や病院」(44.9%)が最も多く、次いで、「区保健福祉センター」(19.4%)が多い。

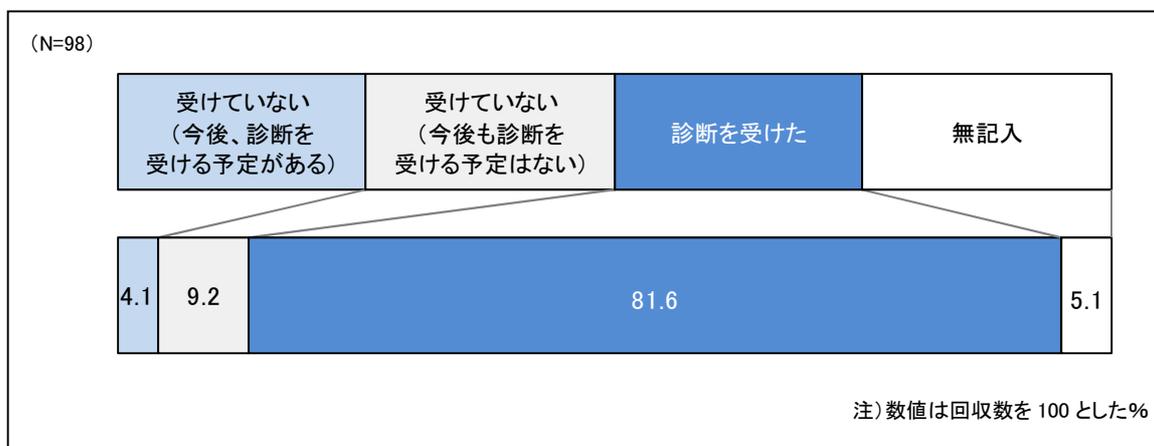
図表 問4(2) 大阪市発達障がい者支援センター(エルムおおさか)以外の相談先(MA)



### ③ 診断の有無

大半(81.6%)が「診断を受けた」と回答しているが、「受けていない(今後も診断を受ける予定はない)」も約1割(9.2%)みられる。

図表 問4(3)① 診断の有無(SA)



### ④ 診断を受けた医療機関と診療科目

診断を受けた代表的な医療機関と診療科目を聞いたところ、2 件以上回答のあった公的医療機関が 6 か所 27 件、民間病院・診療所が 5 ヶ所 26 件あり、診療科目は精神科、小児科、心療内科など。

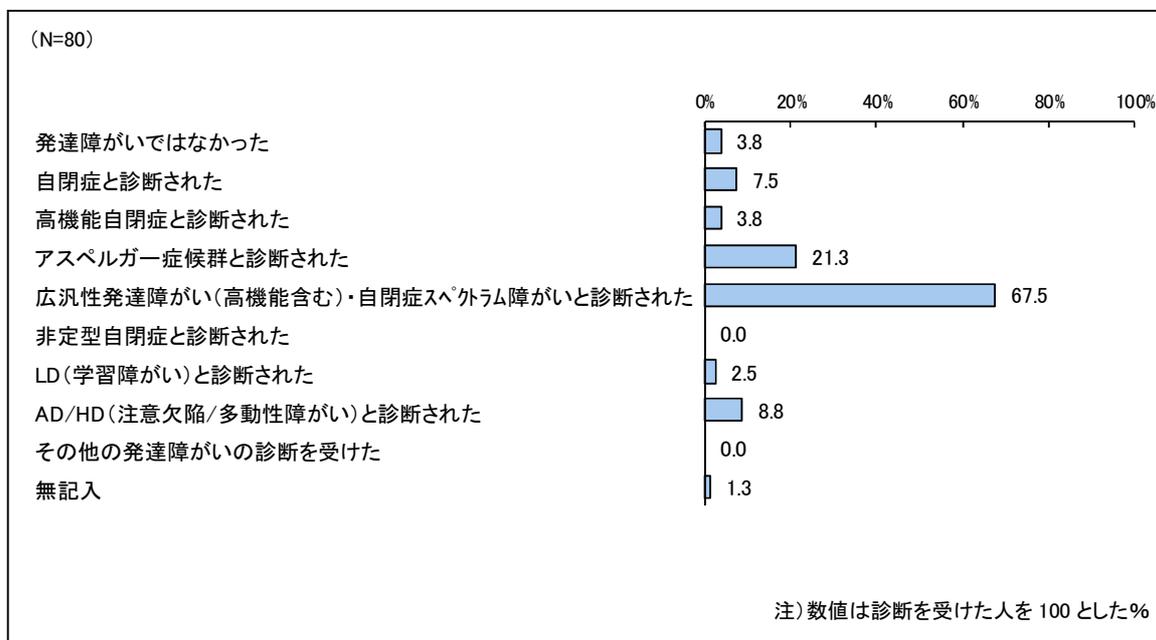
図表 問4(3)② 診断を受けた医療機関と診療科目

公的医療機関	6 か所	27 件(精神科、小児科、他)
民間病院・診療所	5 か所	26 件(精神科、心療内科、他)

## ⑤ 診断名

「広汎性発達障がい(高機能含む)・自閉症スペクトラム障がいと診断された」(67.5%)が最も多く、次いで、「アスペルガー症候群と診断された」(21.3%)が多い。「発達障がいではなかった」方も 3.8%みられる。

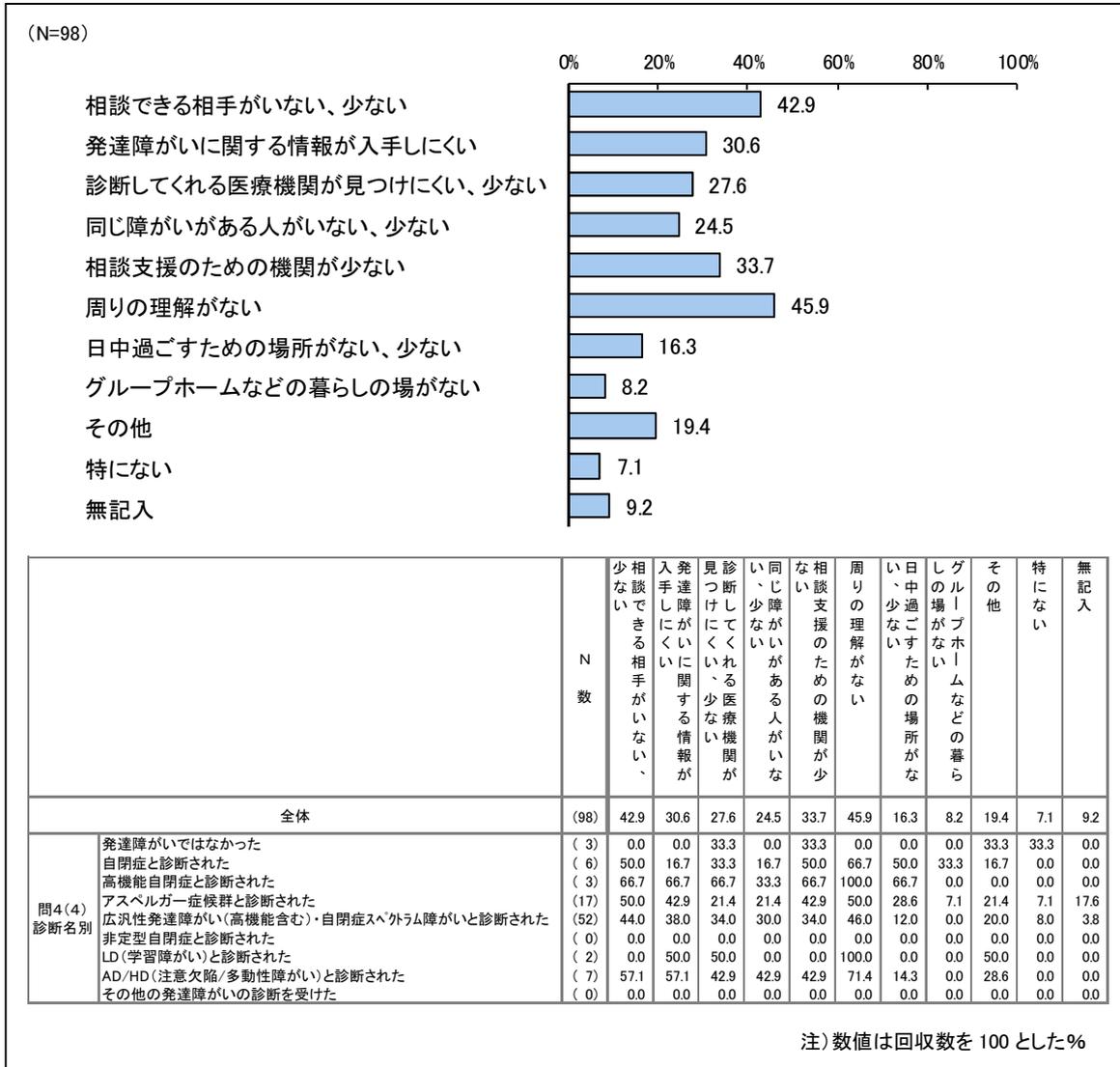
図表 問 4(4) 診断名(MA)



⑥ 発達障がい困っていること

「周りの理解がない」(45.9%)が最も多く、次いで、「相談できる相手がいない、少ない」(42.9%)、「相談支援のための機関が少ない」(33.7%)が多い。

図表 問4(5) 発達障がい困っていること(MA)

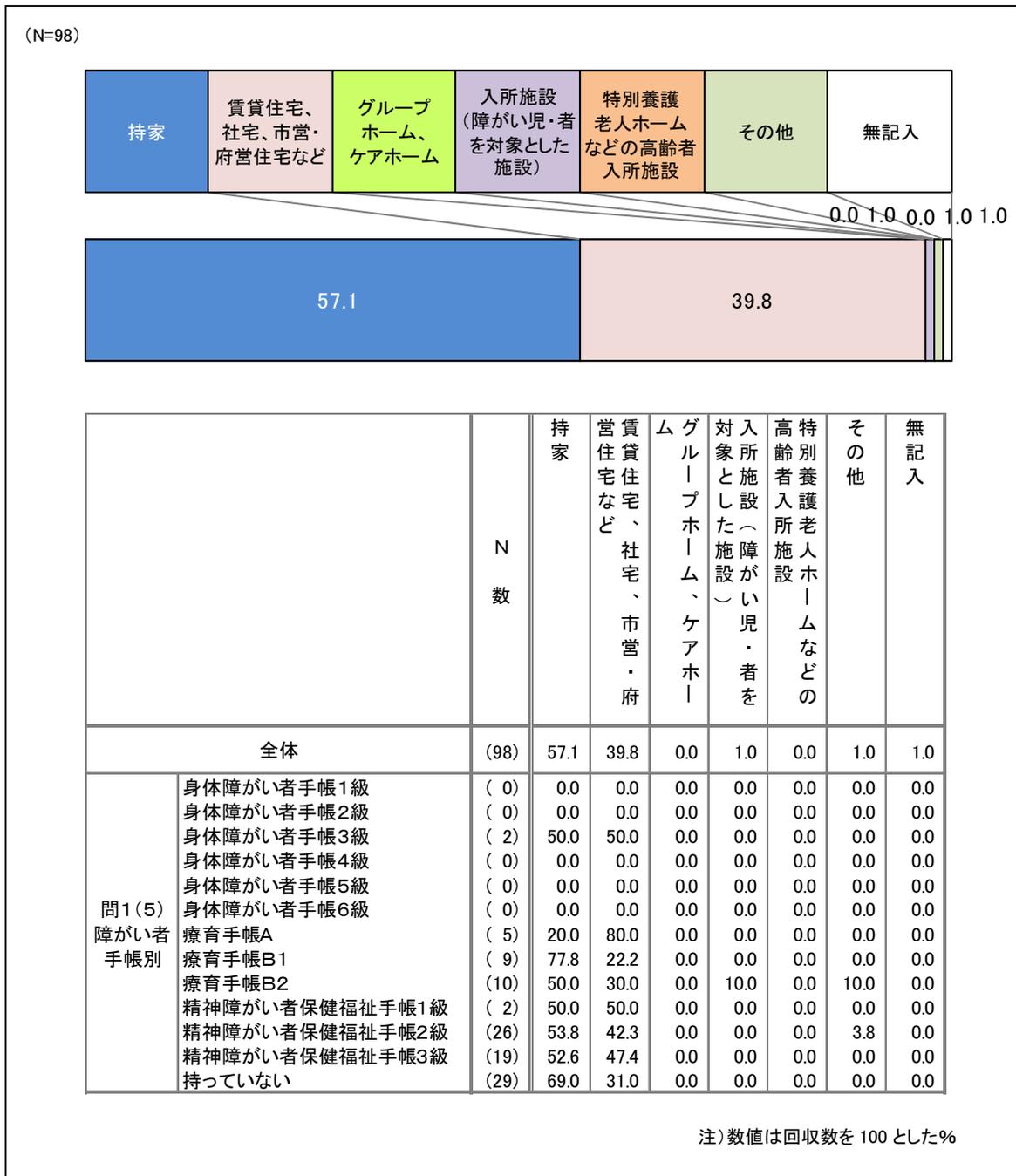


(5) 住まいについて

① 住まいの場所

「持家」(57.1%)が最も多く、次いで、「賃貸住宅、社宅、市営・府営住宅など」(39.8%)。

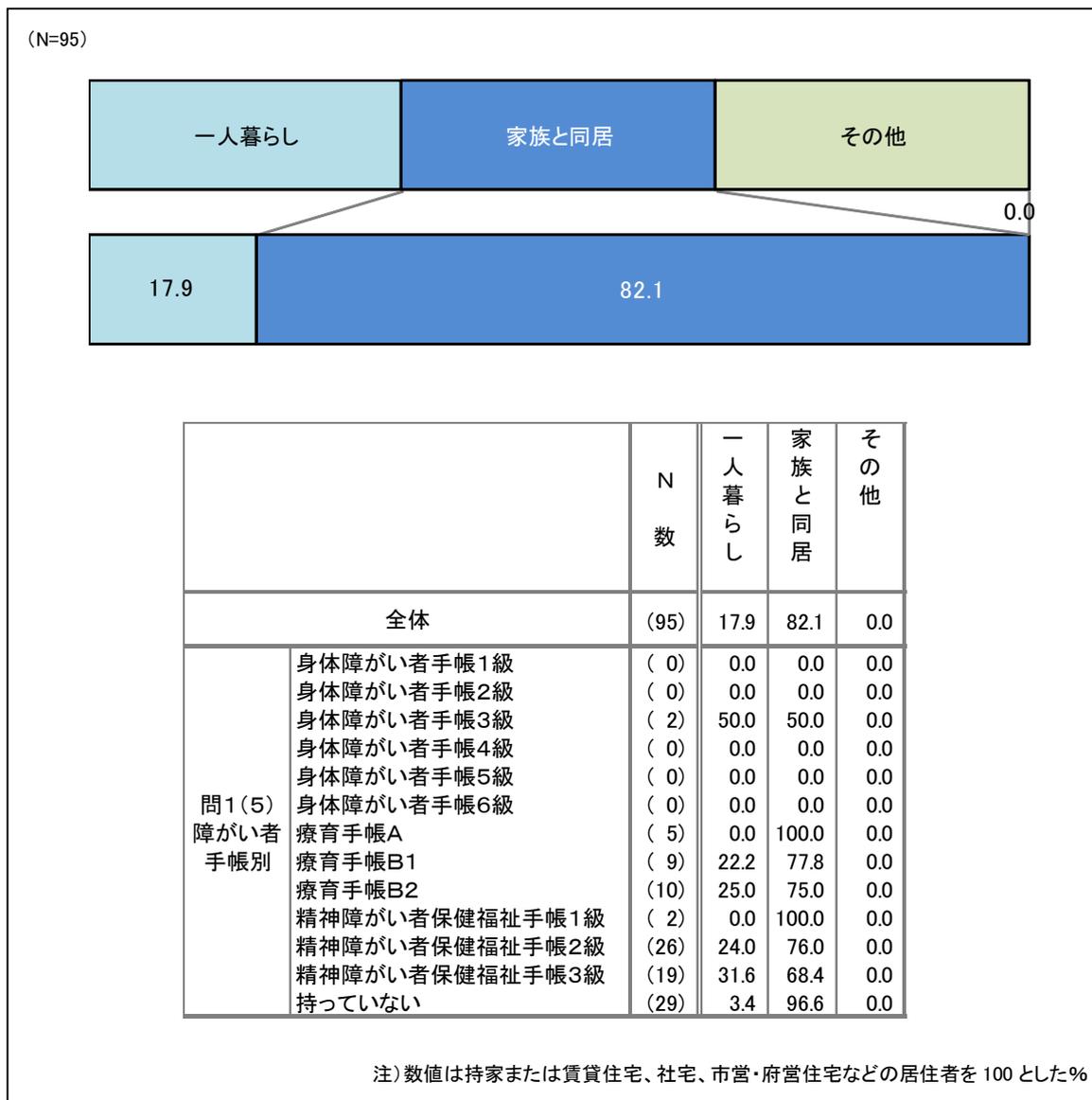
図表 問5(1) 住まいの場所(SA)



## ② 世帯形態

「持家」または「賃貸住宅、社宅、市営・府営住宅など」に居住している方のうち、約 8 割(82.1%)が「家族と同居」している。

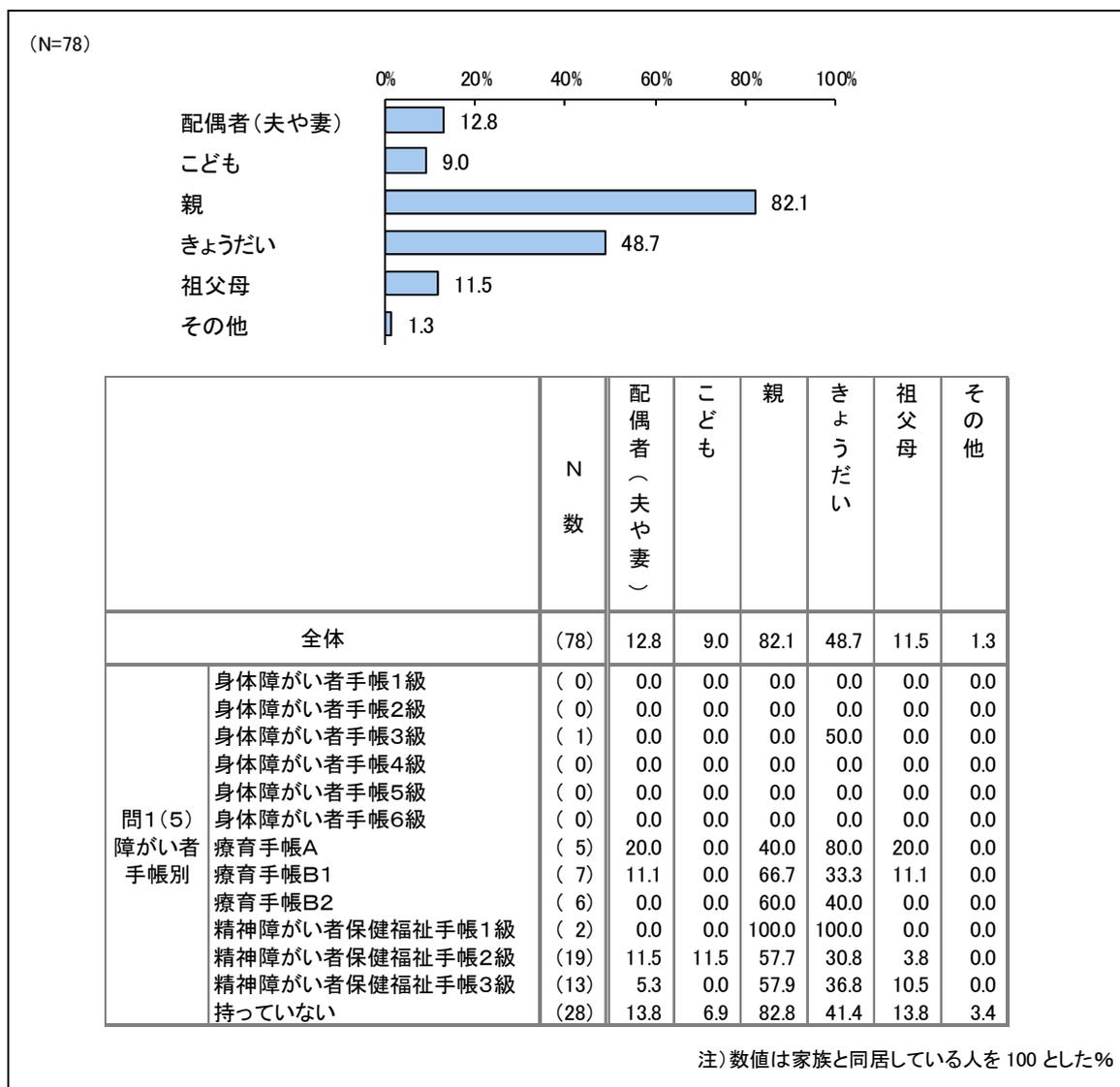
図表 問 5(2)① 世帯形態(SA)



### ③ 同居者

「親」(82.1%)が最も多く、次いで、「きょうだい」(48.7%)が多い。

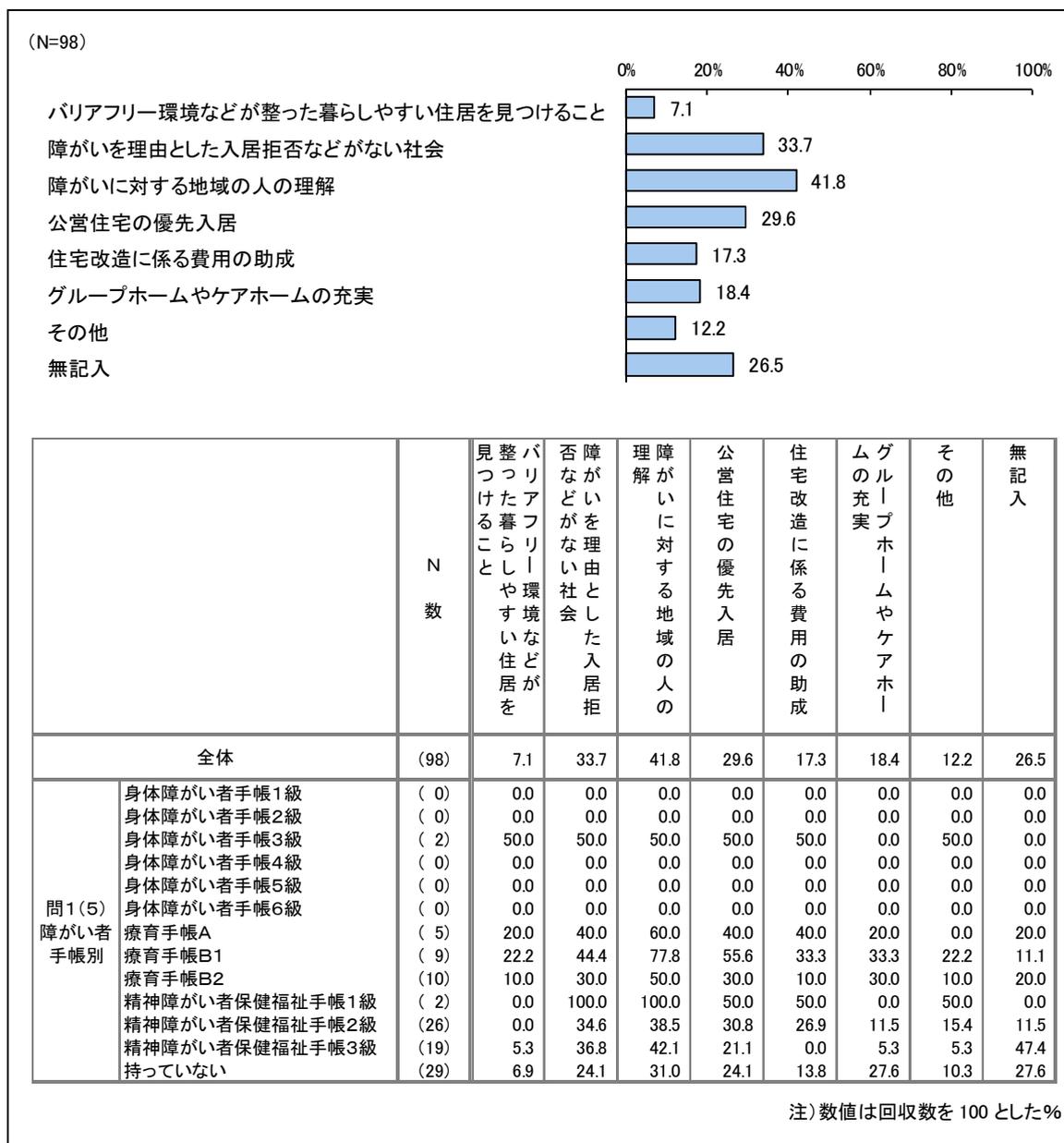
図表 問5(2)② 同居者(MA)



#### ④ 住まいの場を確保するために必要と思うこと

「障がいに対する地域の人の理解」(41.8%)、「障がいを理由とした入居拒否などがない社会」(33.7%)といった周囲の人々の理解が上位にあがっている。

図表 問5(3) 住まいの場を確保するために必要と思うこと(MA)

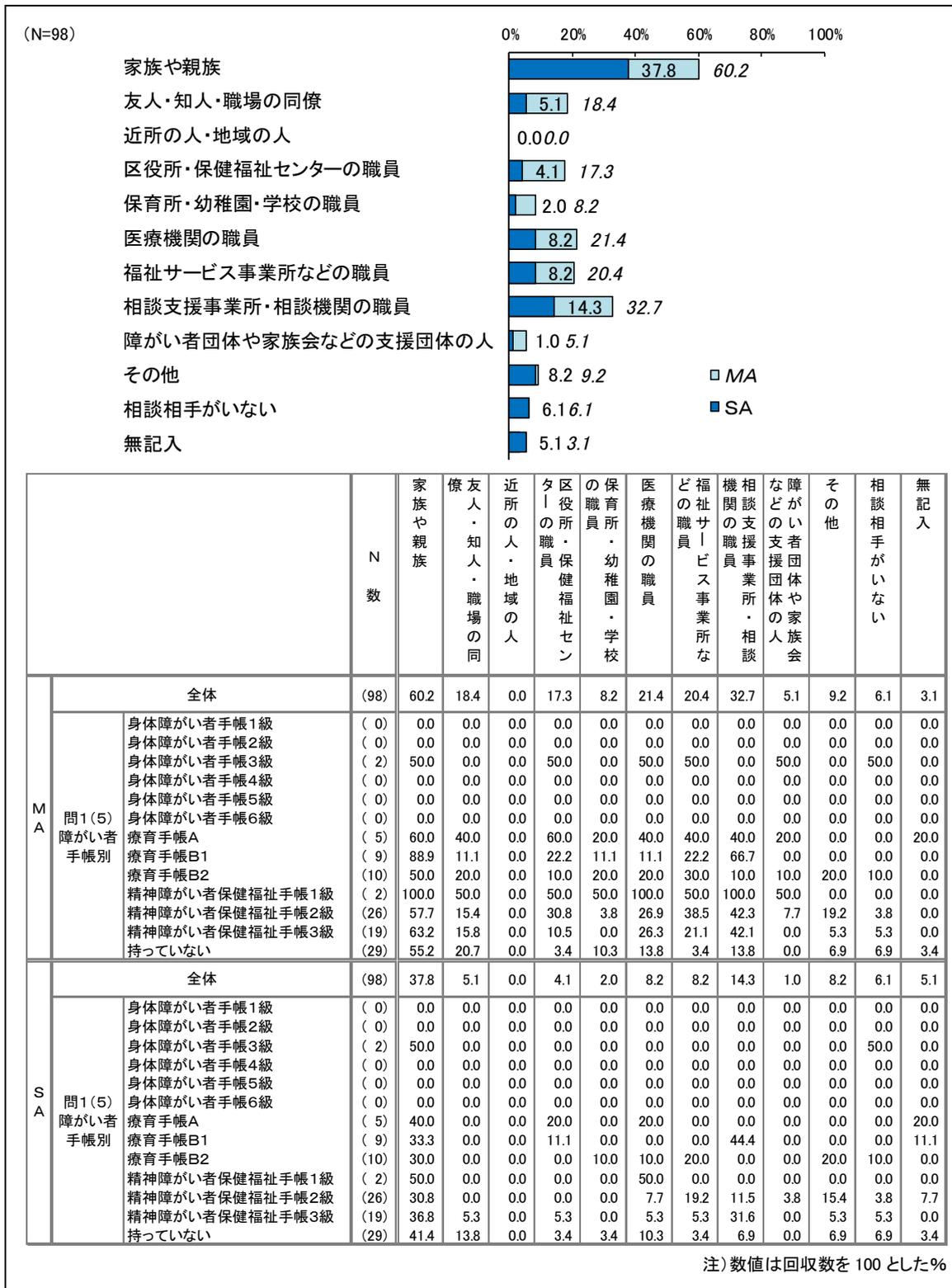


(6) 相談先や情報の入手について

① 普段の相談相手

複数・単一回答ともに、「家族や親族」(MA:60.2%、SA:37.8%)が最も多く、次いで、「相談支援事業所・相談機関の職員」(MA:32.7%、SA:14.3%)が多い。「相談相手がいない」と回答した方は6.1%。

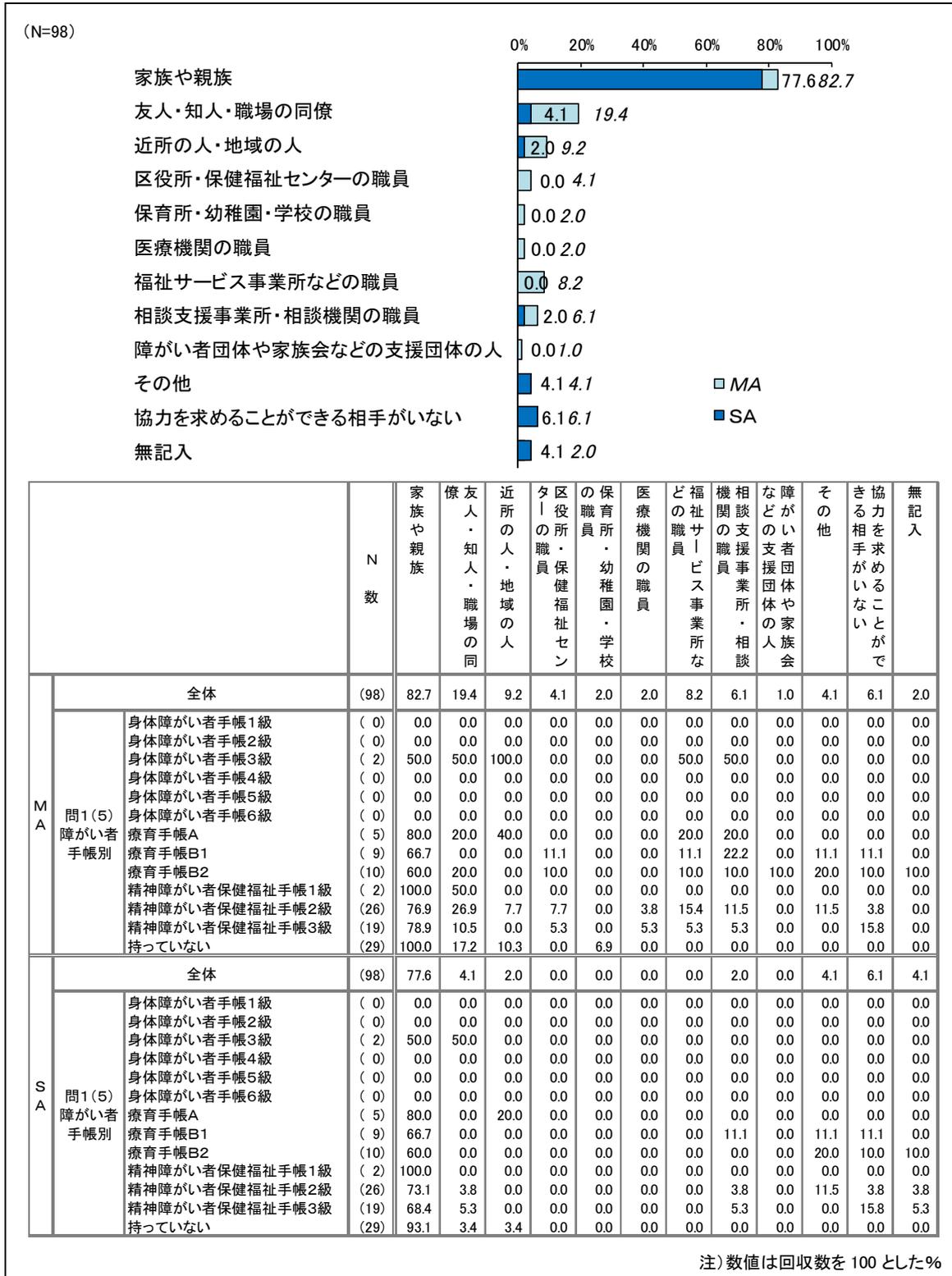
図表 問6(1) 普段の相談相手(MA/SA)



② 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手

複数・単一回答ともに、「家族や親族」(MA:82.7%、SA:77.6%)が最も多く、他に比べて突出している。「協力を求めることができる相手がいない」と回答した方は6.1%。

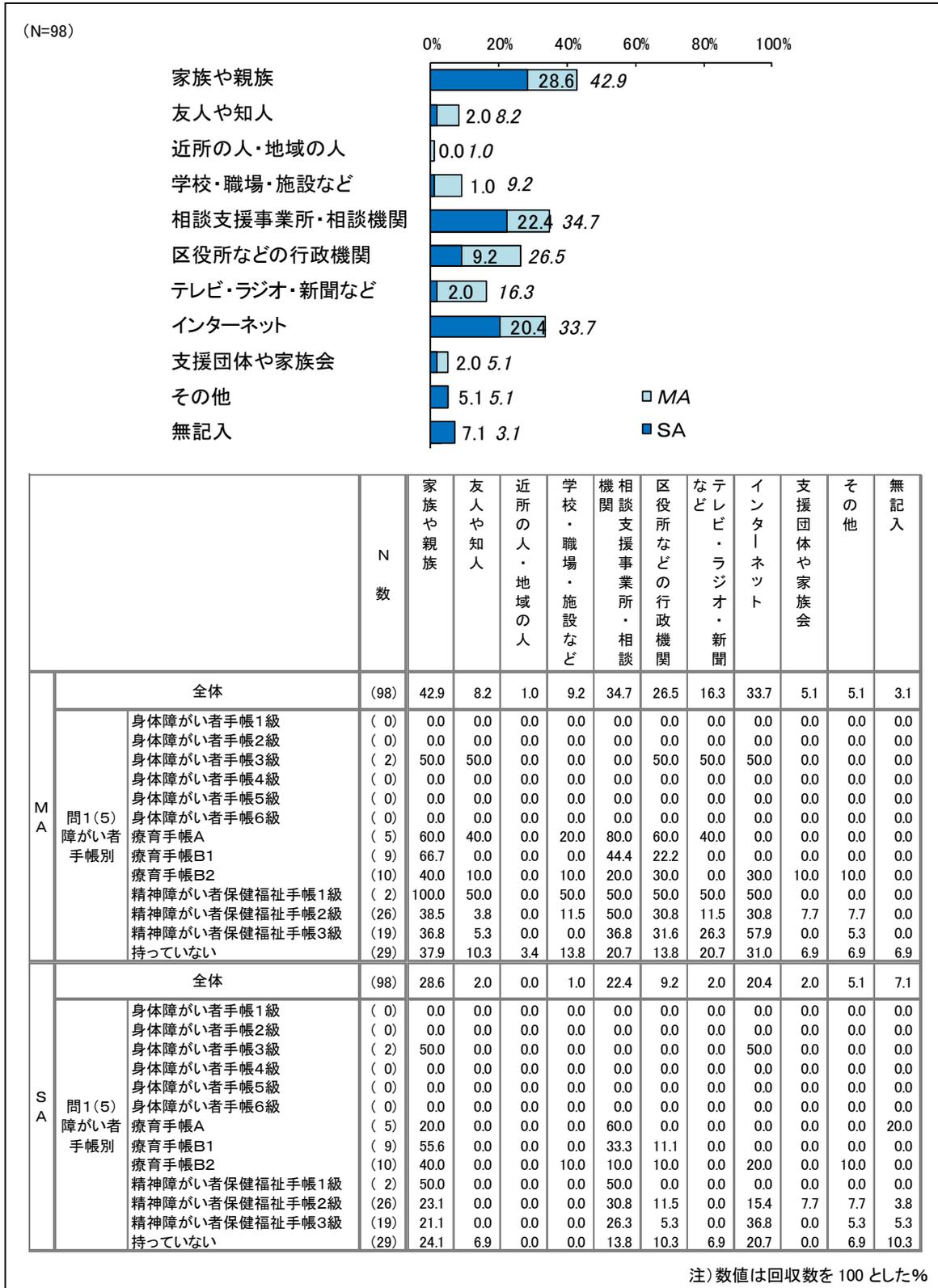
図表 問6(2) 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手(MA/SA)



③ 福祉に関する情報の入手源

「家族や親族」(MA:42.9%、SA:28.6%)が最も多く、次いで、「相談支援事業所・相談機関」(MA:34.7%、SA:22.4%)、「インターネット」(MA:33.7%、SA:20.4%)が多い。

図表 問6(3) 福祉に関する情報の入手源(MA/SA)

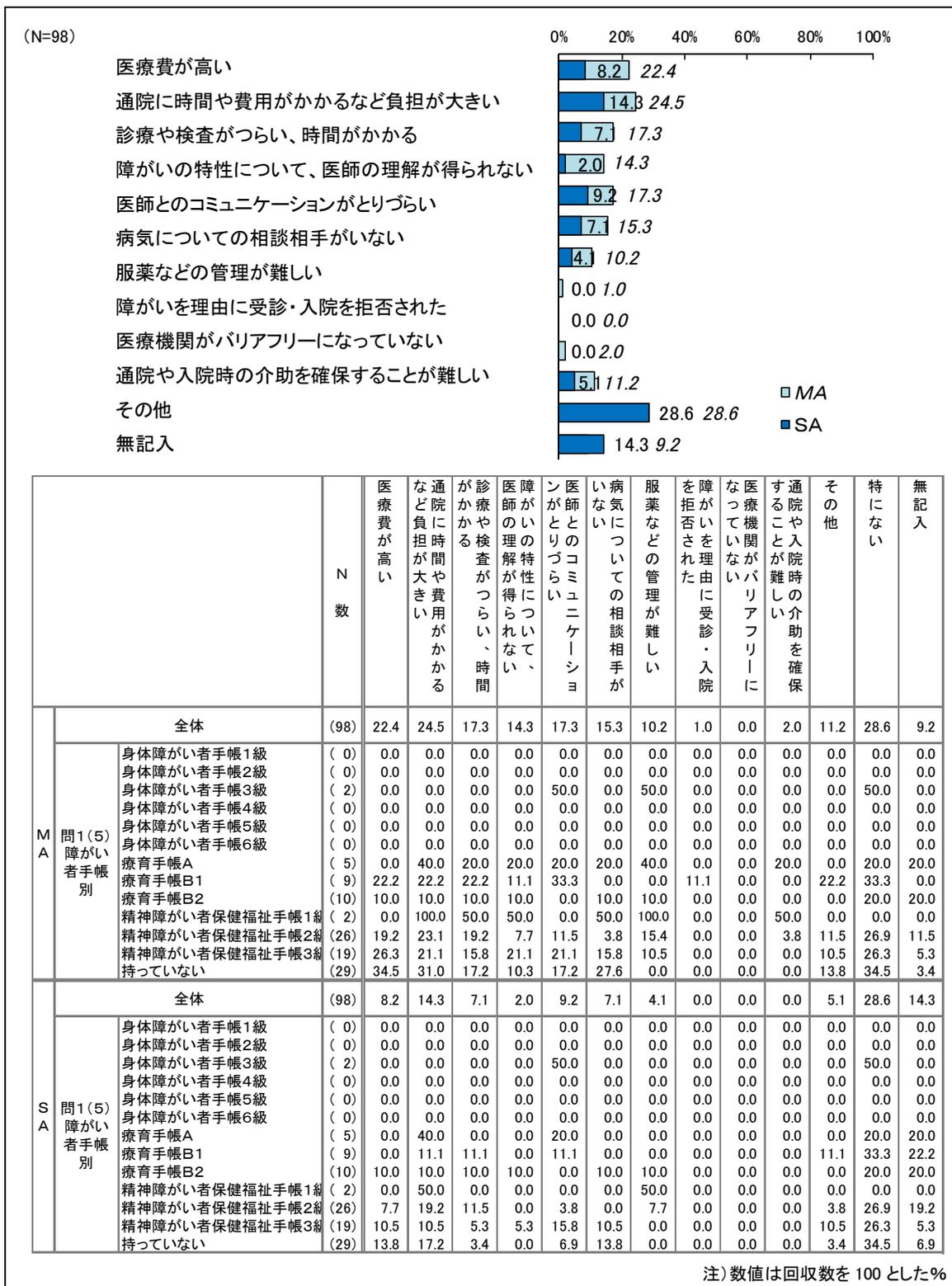


(7) 医療について

① 医療について困っていること

「通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい」(MA: 24.5%、SA: 14.3%)、「医療費が多い」(MA: 22.4%、SA: 8.2%)、「医師とのコミュニケーションがとりづらい」(MA: 17.3%、SA: 9.2%)、「診療や検査がづらい、時間がかかる」(MA: 17.3%、SA: 7.1%)が上位にあがっている。

図表 問 7(1) 医療について困っていること(MA/SA)

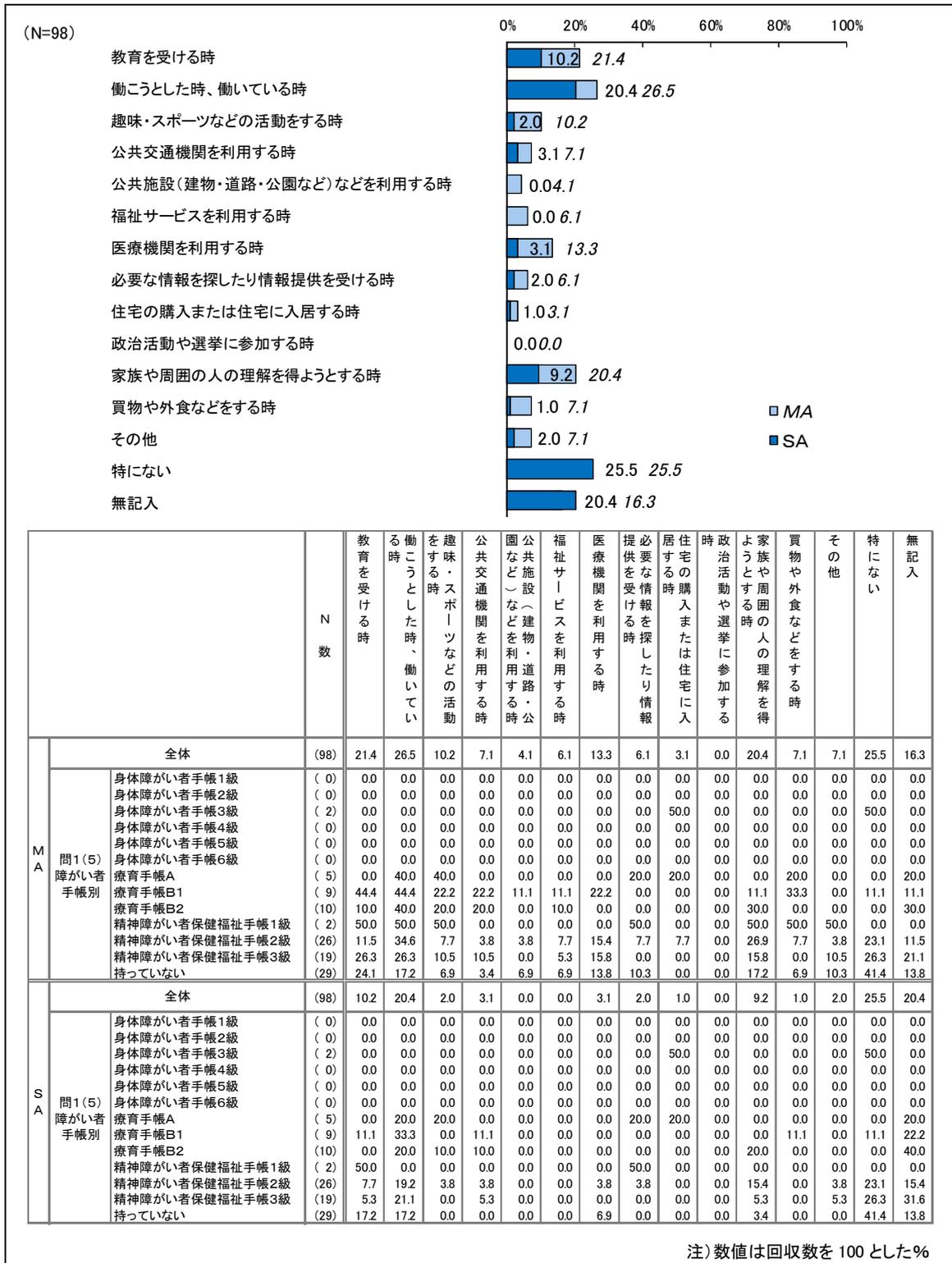


(8) 障がい者施策全般について

① 障がいを理由に不快(差別)と感じたとき

複数・単一回答ともに、「働こうとした時、働いている時」(MA:26.5%、SA:20.4%)が最も多く、次いで、「教育を受ける時」(MA:21.4%、SA:10.2%)、「家族や周囲の人の理解を得ようとする時」(MA:20.4%、SA:9.2%)が多い。

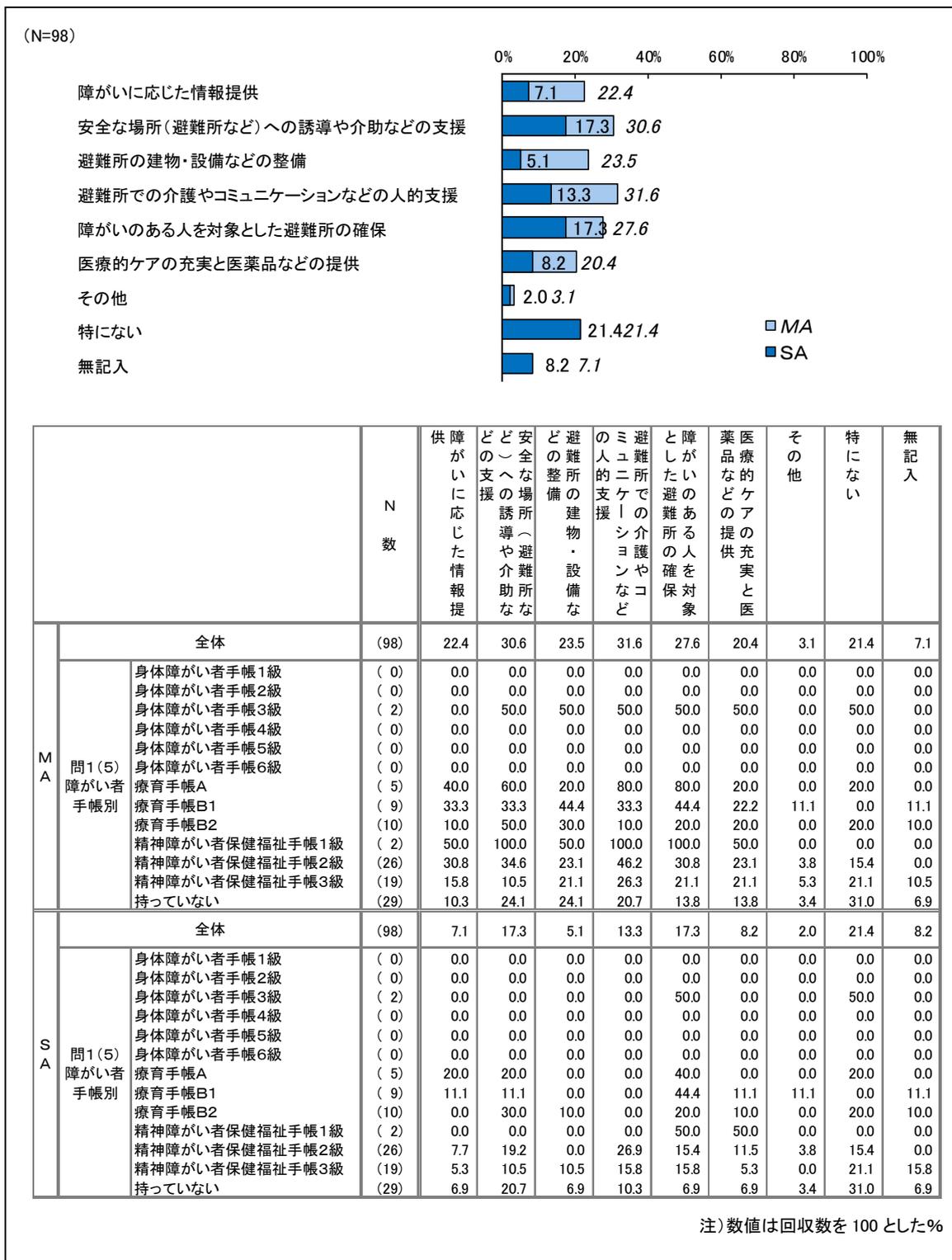
図表 問8(1) 障がいを理由に不快(差別)と感じたとき(MA/SA)



② 地震や台風などの災害時に必要と思うこと

複数回答では、「避難所での介護やコミュニケーションなどの人的支援」(MA:31.6%、SA:13.3%)、  
 が最も多いが、単一回答では、「安全な場所(避難所など)への誘導や介助などの支援」(MA:30.6%、  
 SA:17.3%)、「障がいのある人を対象とした避難所の確保」(MA:27.6%、SA:17.3%)が多い。

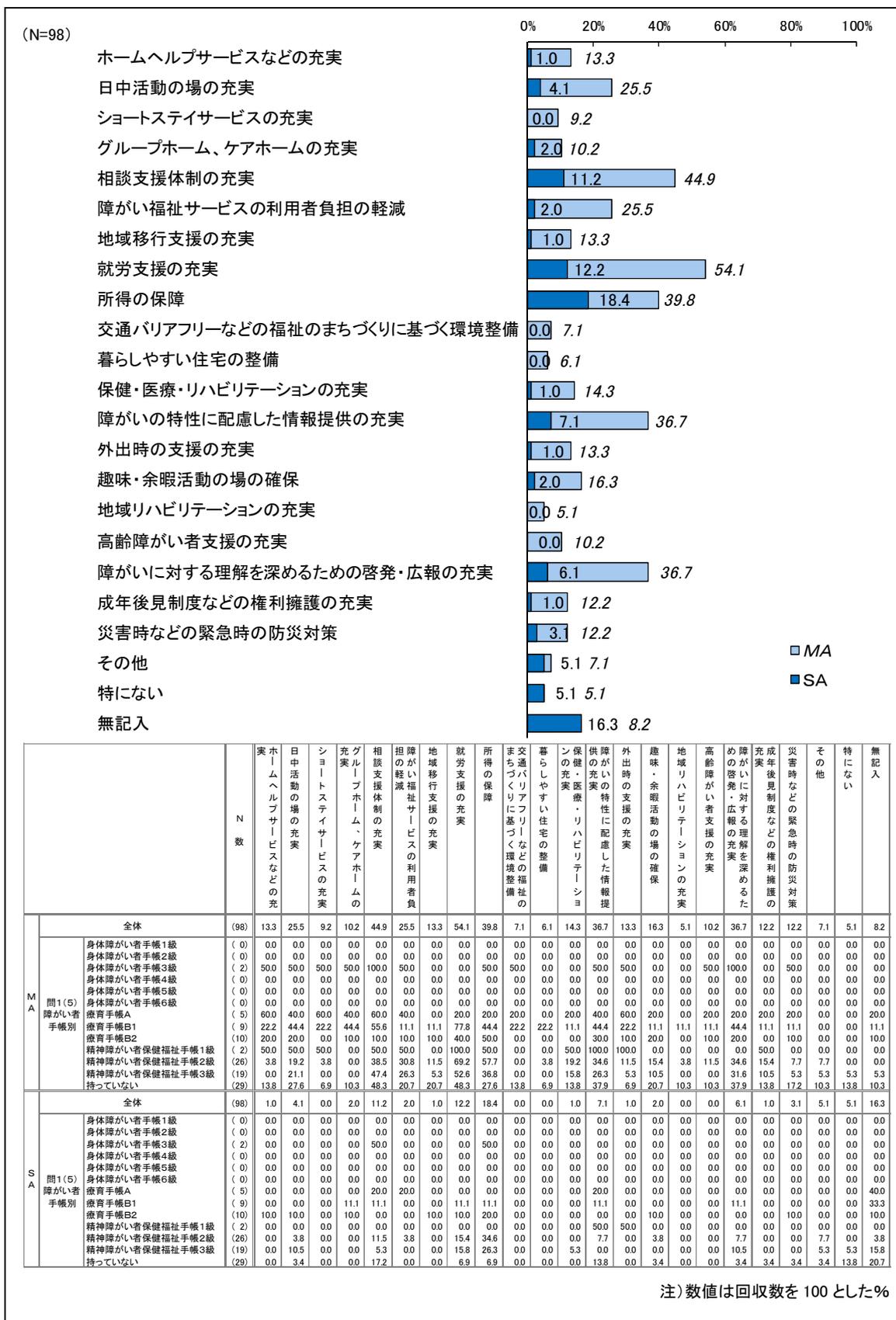
図表 問 8(3) 地震や台風などの災害時に必要と思うこと(MA/SA)



③ 障がい者施策全般について望むこと

複数回答では、「就労支援の充実」(54.1%)、単一回答では、「所得の保障」(18.4%)が最も多い。

図表 問 8(3) 障がい者施策全般について望むこと(MA/SA)



#### ④ 障がい者施策全般についての意見

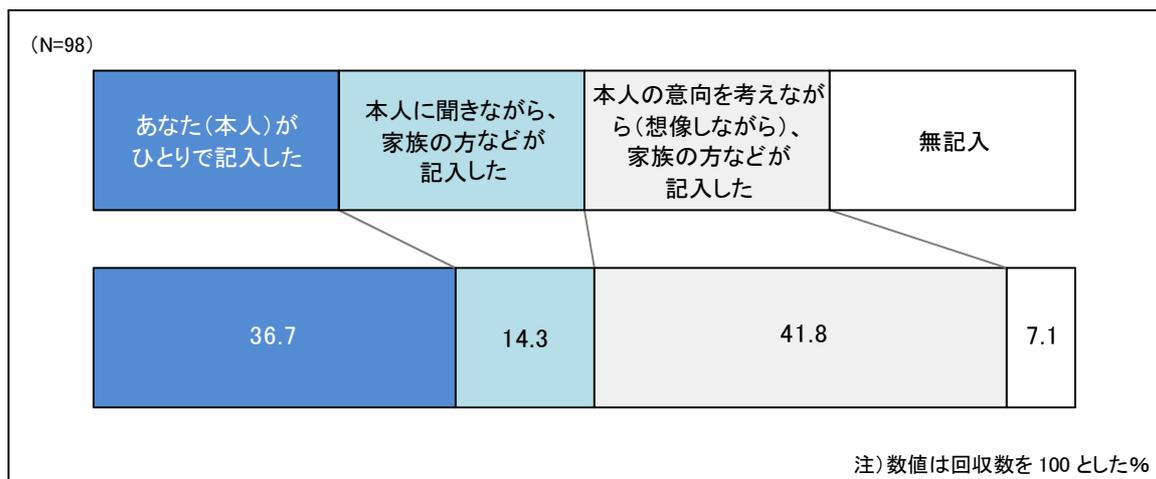
障がい者施策全般についての意見を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問8(4) 障がい者施策全般についての意見

- ・ 障がい福祉サービス事業所の利用サービスの向上(利用者の単一化、利用者の一人一人の個性に対応した支援、就労支援、施設サービスの向上)を強く望みます。
- ・ 目に見えない障がいについて、社会に理解して貰えておらず暮らしにくい。差別は減っていると思うけれど、理解と支援をいただきたいです。交通機関のポスター・看板・区民だより等で、(講演会は関係者しか行きませんから)広く社会全般に向けての啓発活動を大阪市政に強く望み期待します。
- ・ 何か困った時、行きづまった時にいつもエルムおおさかで私(母)が相談させてもらっています。相談できる場所としては本当にありがたいと思っています。しかし、本人はすでに21才となり、この年齢になるとなかなか具体的支援を受けることができないのではないのでしょうか？
- ・ 就労の場を増やし、企業側での障がいに対する理解を深めていってほしい。各種手続きをわかりやすくしてほしい。
- ・ 精神・発達障がいに対して社会サービスを行う人たち(役所、ハローワーク)に理解が少なかったりするので、お互いの意思疎通が難しい時がある。身体・知的・精神でうけれるサービスが違う。障がい者の中でも差別があるように感じる。現状、一番平等(?)に障がい者を扱っているのは携帯電話会社のみ。
- ・ 発達障がいの範囲があまりにあいまい過ぎて、周囲の理解をえるのが難しいので、行政などがもう少し情報発信などあればいいと思う。発達障がいは障がいなのか、ただできないだけ、癖なのか当事者の私もわかりづらい(障がいとアピールしていいのかわからない。)
- ・ 親もストレスで疲れてしまっている。親に対しての支援も欲しい。
- ・ たくさんの発達障がい者を助けているエルムおおさかはとてもうれしいのですが、そのせいか、相談のお約束がとれなかったりして困ります。それと電話回線を増やしてください。電話相談中なのか、お約束の電話ができる体調のときに通じません。あと、みんな頑張っているのだから人を増やして皆さん自身の負担も減らしてください。
- ・ 発達障がいに対する制度、支援がまだ整備されていないからか、手帳を取得しないと相談にものってくれない。発達障がい者のための障がい者手帳、就労支援がきちんと整備されるようになってほしい。
- ・ 非常に孤立した状態になっているので、お互いの話しを出来る仲間をもとめていますが、常に参加できる「場」があればと思います。
- ・ まず名称の変更が必要だと思います。「障がい→プラスサポート」「くすのき学級→サポート教室」「”がい”→害がある」イメージ。「”学級”→少し知能が低いような、子供”なイメージ。ちょっとした違いに気付いてあげて、丁寧にサポートしてあげることで健常者と同じ生活ができる社会になるよう、一緒に頑張れば社会全体が幸せになれるようなプラスイメージの言葉に。

⑤ 調査票記入者

図表 問 8(5) 記入者(SA)



## 6. 高次脳機能障がいに関する調査 調査結果

### (1) 調査対象者の属性

#### ① 居住区

図表 問1(1) 居住区(SA)

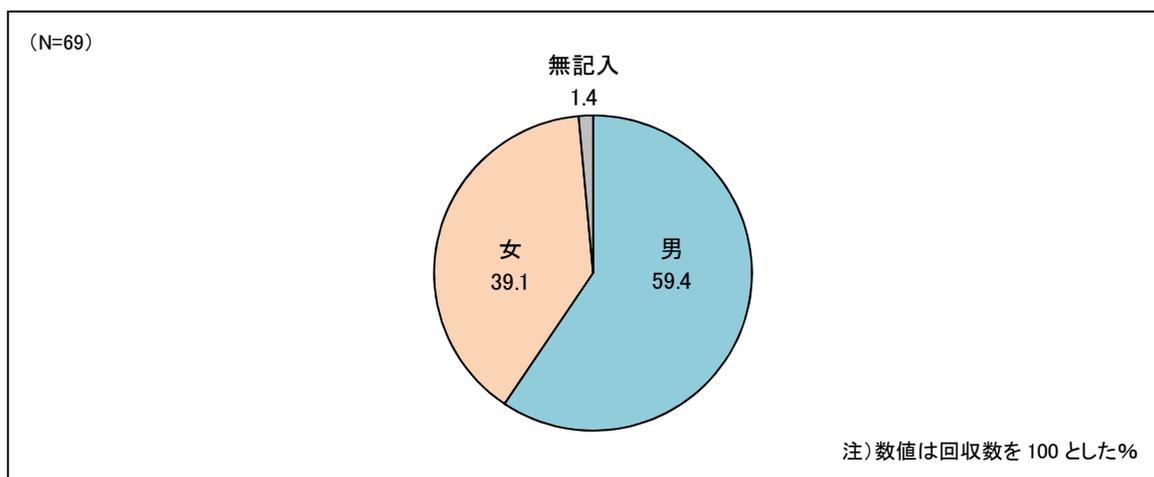
(N=69)

北 区	都 島 区	福 島 区	此 花 区	中 央 区	西 区	港 区	大 正 区	天 王 寺 区	浪 速 区	西 淀 川 区	淀 川 区	東 淀 川 区	東 成 区	生 野 区	旭 区	城 東 区	鶴 見 区	阿 倍 野 区	住 之 江 区	住 吉 区	東 住 吉 区	平 野 区	西 成 区	大 阪 市 外	無 記 入
2.9	2.9	1.4	0.0	1.4	2.9	2.9	2.9	1.4	0.0	1.4	1.4	10.1	0.0	8.7	2.9	5.8	4.3	8.7	2.9	7.2	1.4	8.7	2.9	11.6	2.9

注)数値は回収数を 100 とした%

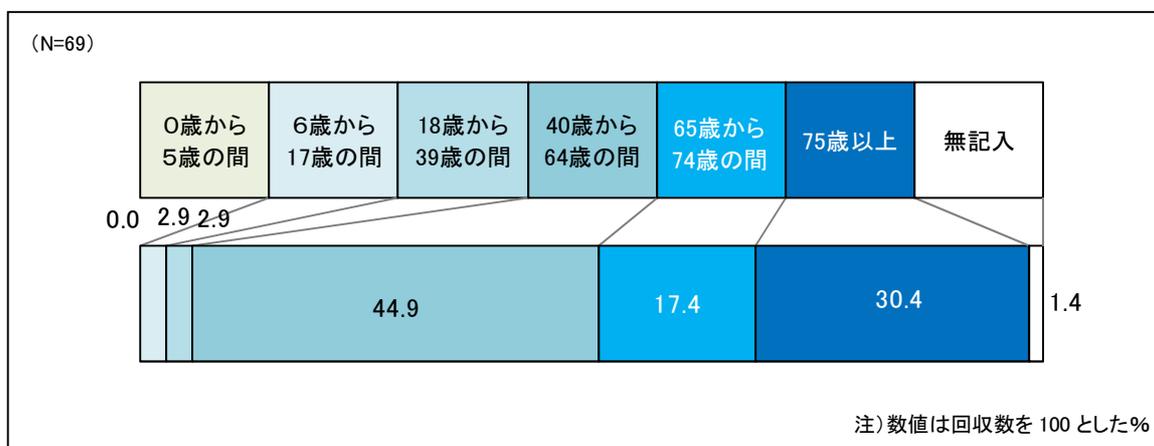
#### ② 性別

図表 問1(2) 性別(SA)



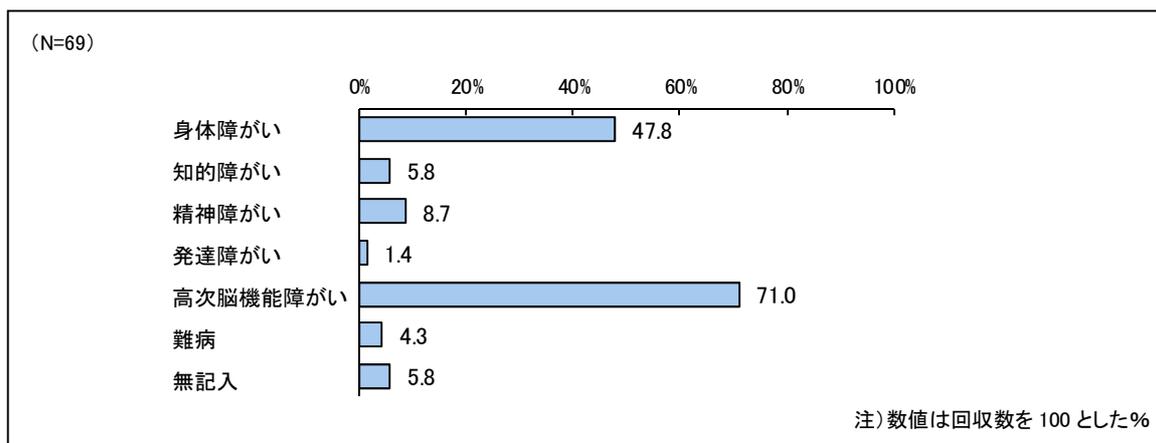
#### ③ 年齢

図表 問1(3) 年齢(SA)



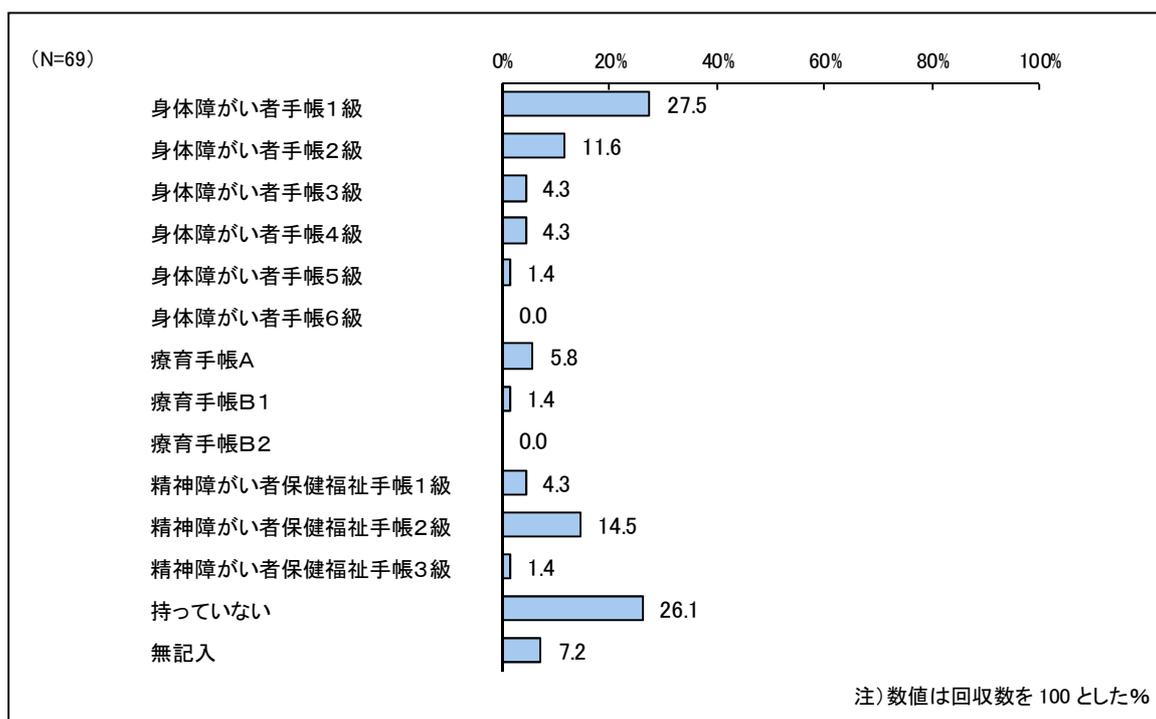
#### ④ 障がいの種類

図表 問1(4) 障がいの種類(MA)



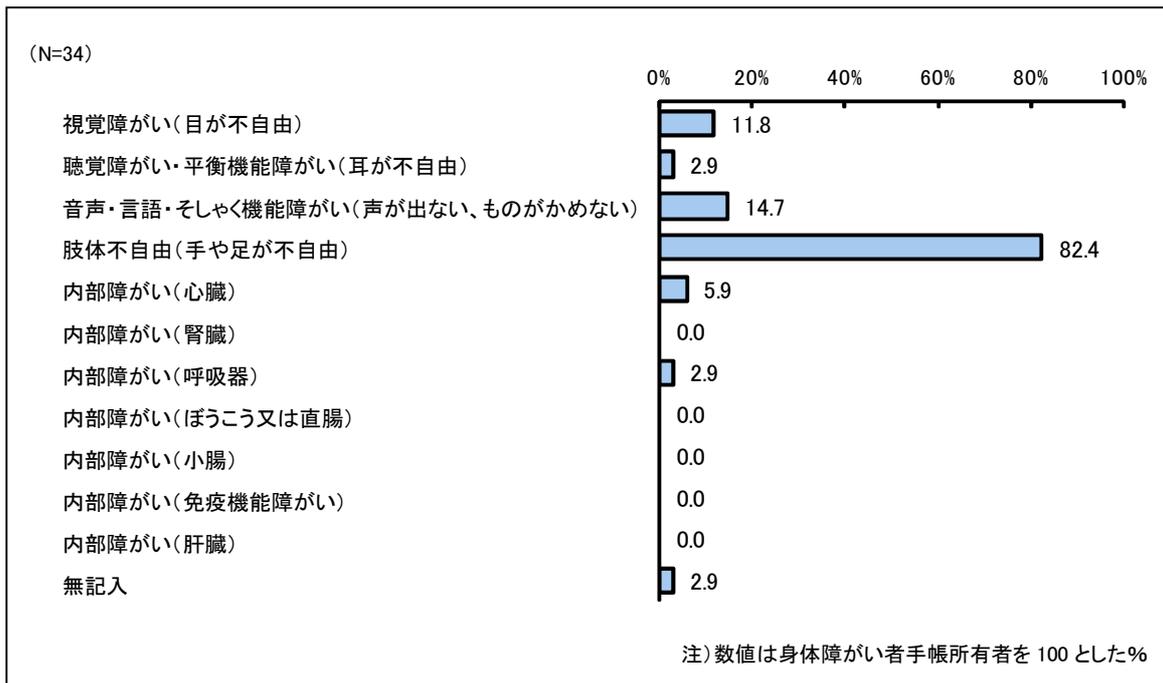
#### ⑤ 障がい者手帳の種類・等級

図表 問1(5) 障がい者手帳の種類・等級(MA)



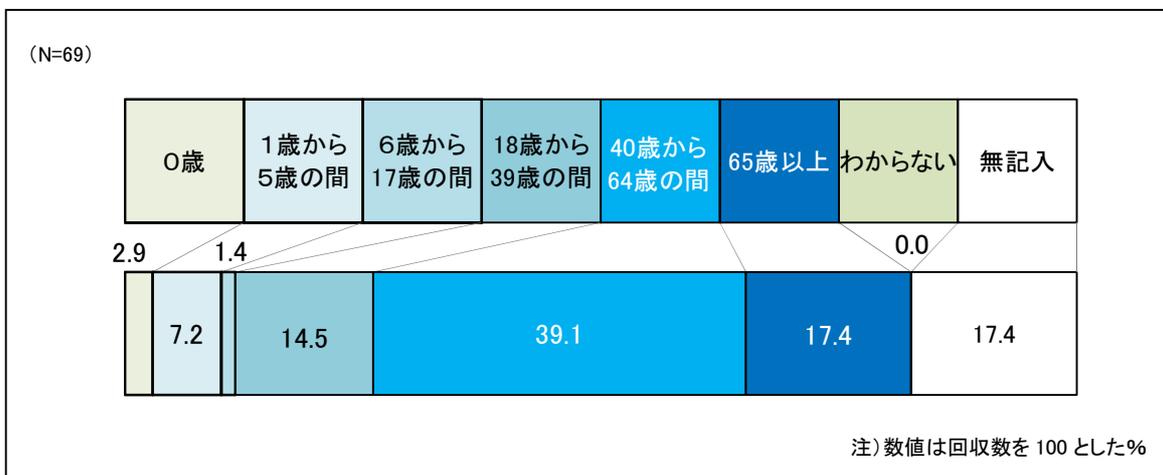
⑥ 障がいの種類(部位)

図表 問 1(6) 障がいの種類(部位)(MA)



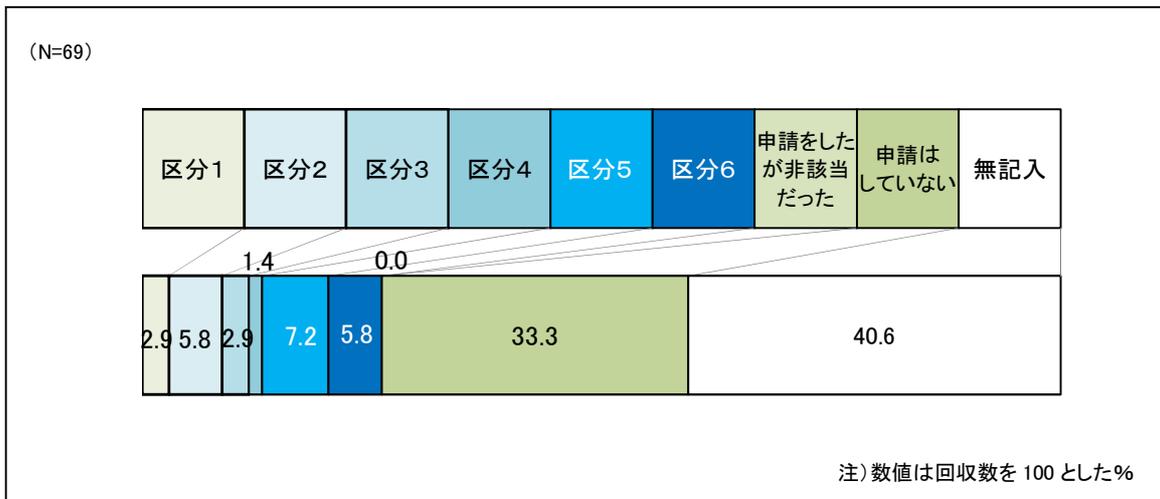
⑦ 障がいの発生時期

図表 問 1(7) 障がいの発生時期(SA)



⑧ 障がい程度区分

図表 問1(8) 障がい程度区分(SA)

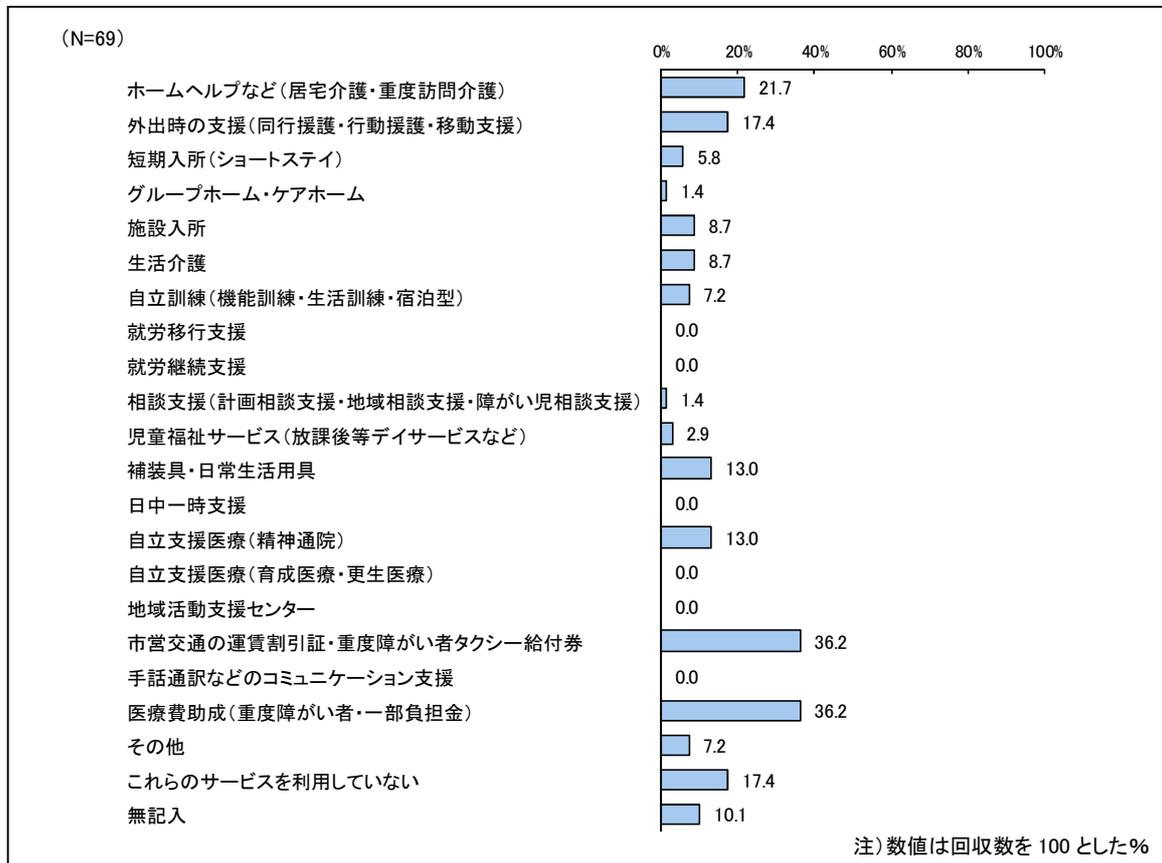


## (2) 障がい福祉に関するサービスについて

### ① 利用している障がい福祉サービス

「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」「医療費助成」(各 36.2%)が最も多く、次いで、「ホームヘルプなど」(21.7%)が多い。

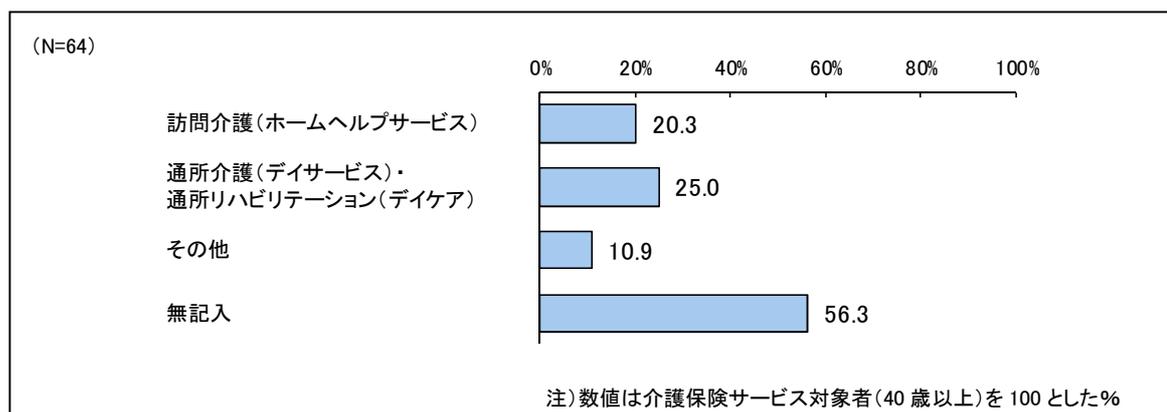
図表 問 2(1) 利用している障がい福祉サービス(MA)



### ② 利用している介護保険サービス

「通所介護(デイサービス)・通所リハビリテーション(デイケア)」(23.2%)が最も多く、次いで、「訪問介護」(18.8%)が多い。

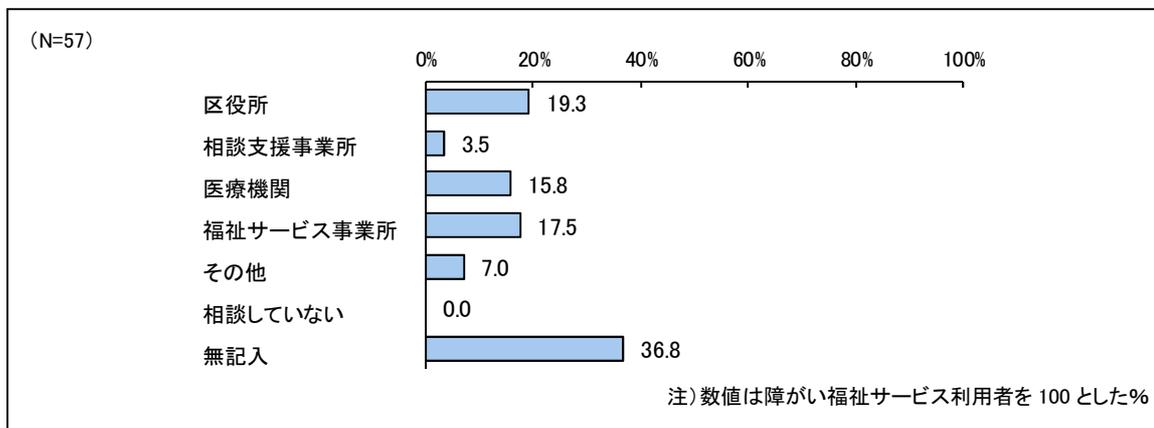
図表 問 2(2) 利用している介護保険サービス(MA)



### ③ 福祉サービスの主な相談先

「区役所」(19.3%)が最も多く、次いで、「福祉サービス事業所」(17.5%)、「医療機関」(15.8%)が多い。

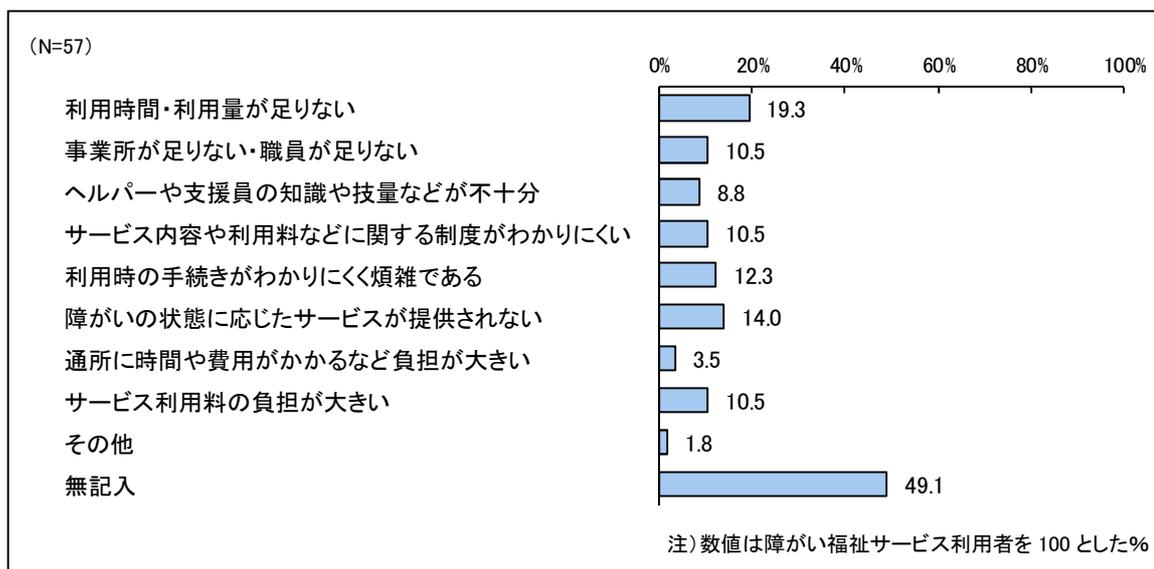
図表 問 2(3) 福祉サービスの主な相談先(MA)



### ④ 福祉サービス利用の問題点

「利用時間・利用量が足りない」(19.3%)が最も多く、次いで、「障がいの状態に応じたサービスが提供されない」(14.0%)、「利用時の手続きがわかりにくく煩雑である」(12.3%)が多い。

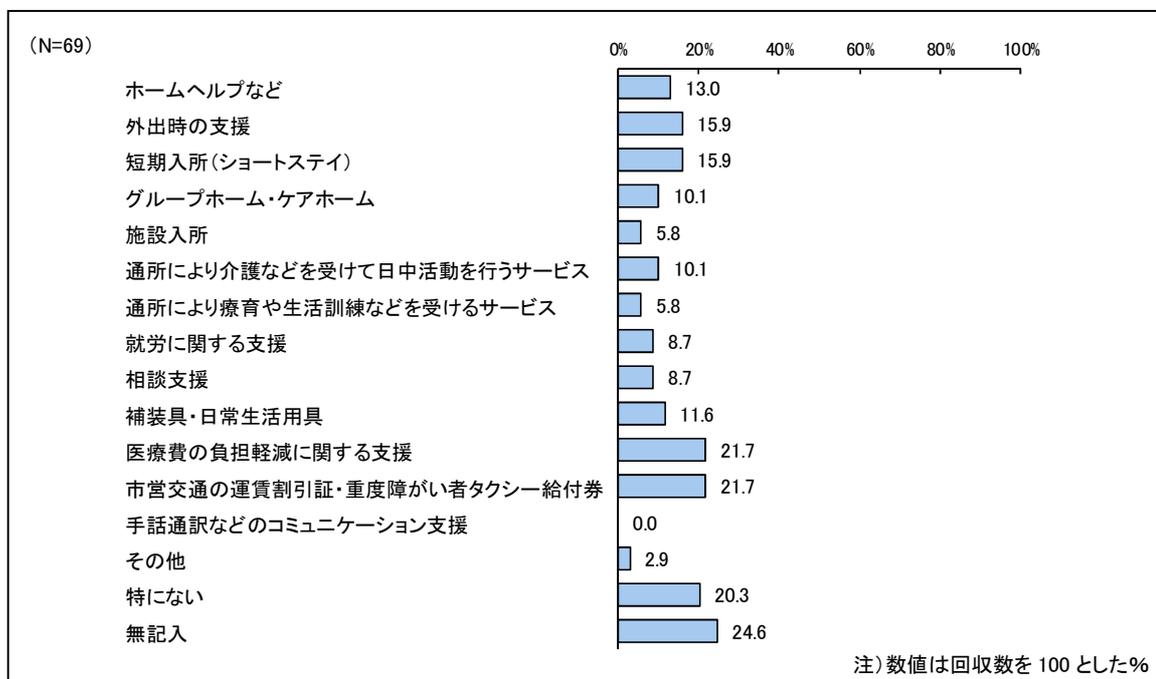
図表 問 2(4) 福祉サービス利用の問題点(MA)



⑤ 今後利用したい福祉サービス

「医療費の負担軽減に関する支援」「市営交通の運賃割引証・重度障がい者タクシー給付券」(各 21.7%)が最も多く、次いで、「外出時の支援」「短期入所(ショートステイ)」(各 15.9%)が多い。

図表 2(5) 今後利用したい福祉サービス(MA)

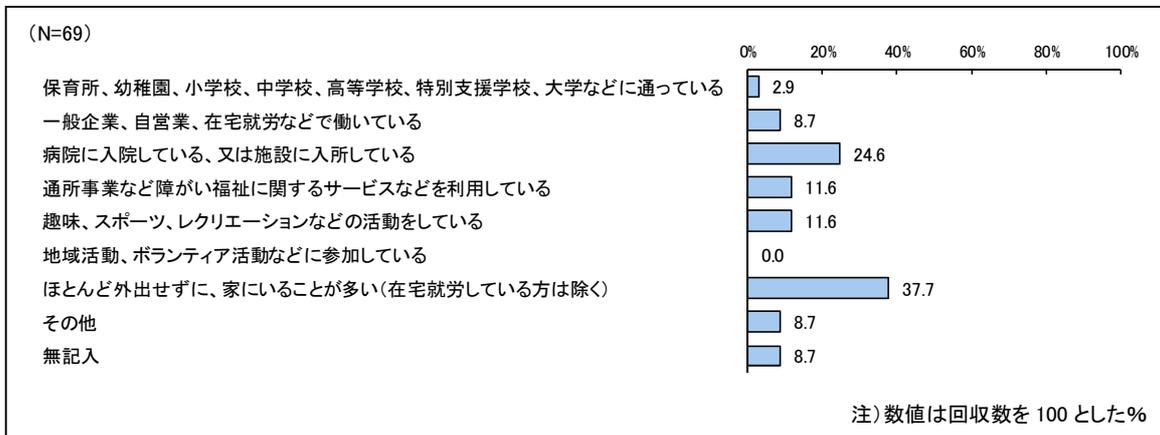


### (3) 日常生活や社会参加について

#### ① 日中の主な活動

「ほとんど外出せずに、家にいることが多い(在宅就労している方は除く)」(37.7%)が最も多く、次いで、「病院に入院している、又は施設に入所している」(24.6%)が多い。

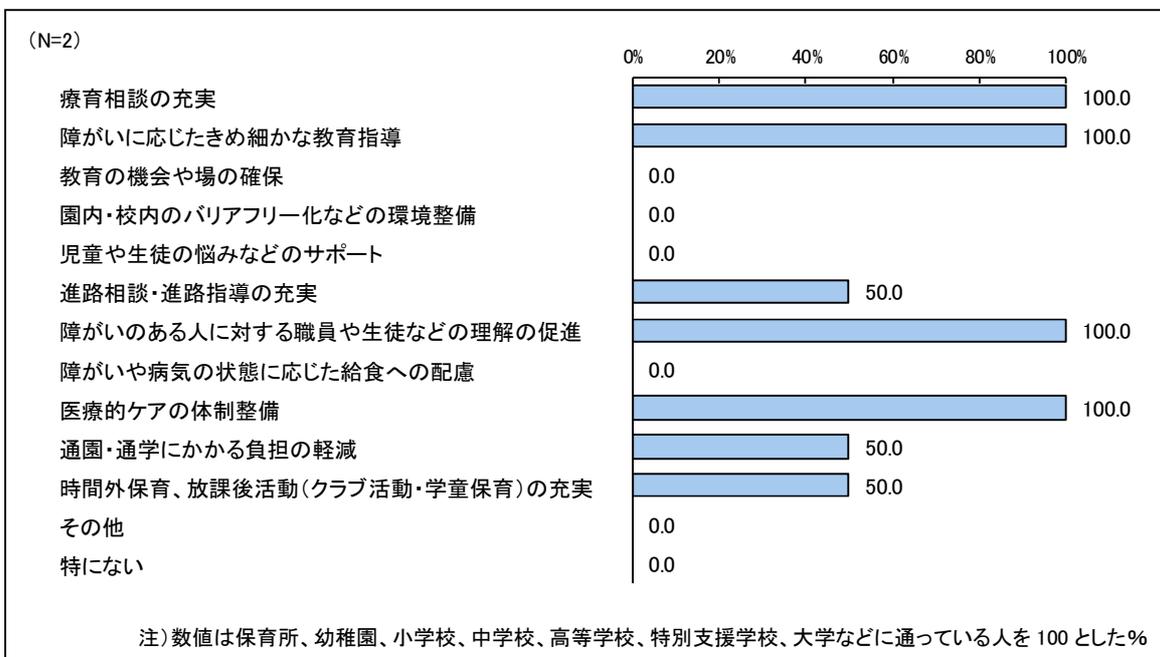
図表 問3(1) 日中の主な活動(MA)



#### ② 保育や教育で望むこと

回答者数が少ないため、コメントは割愛。

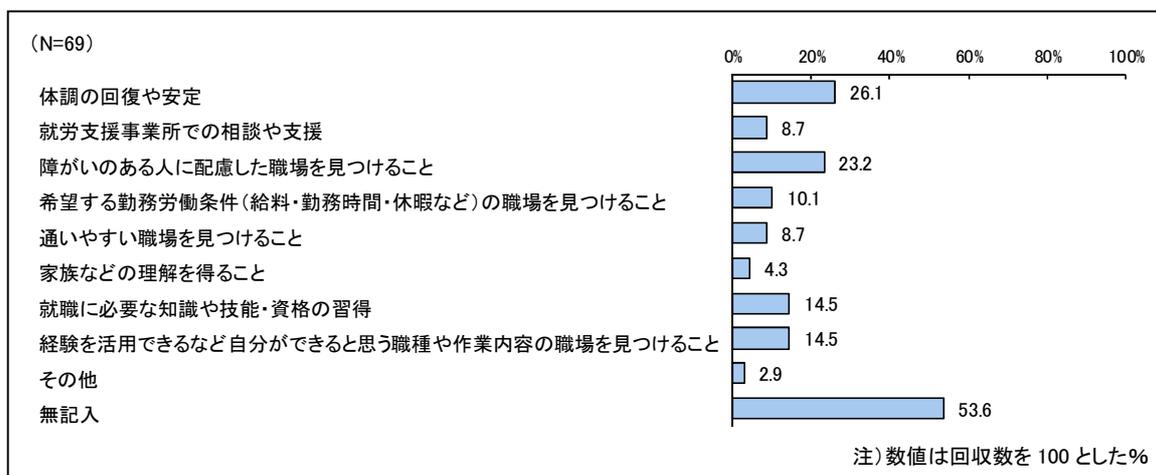
図表 問3(2) 保育や教育で望むこと(MA)



### ③ 一般就労につながった、必要だと思うこと

「体調の回復や安定」(26.1%)が最も多く、次いで、「障がいのある人に配慮した職場を見つけること」(23.2%)が多い。

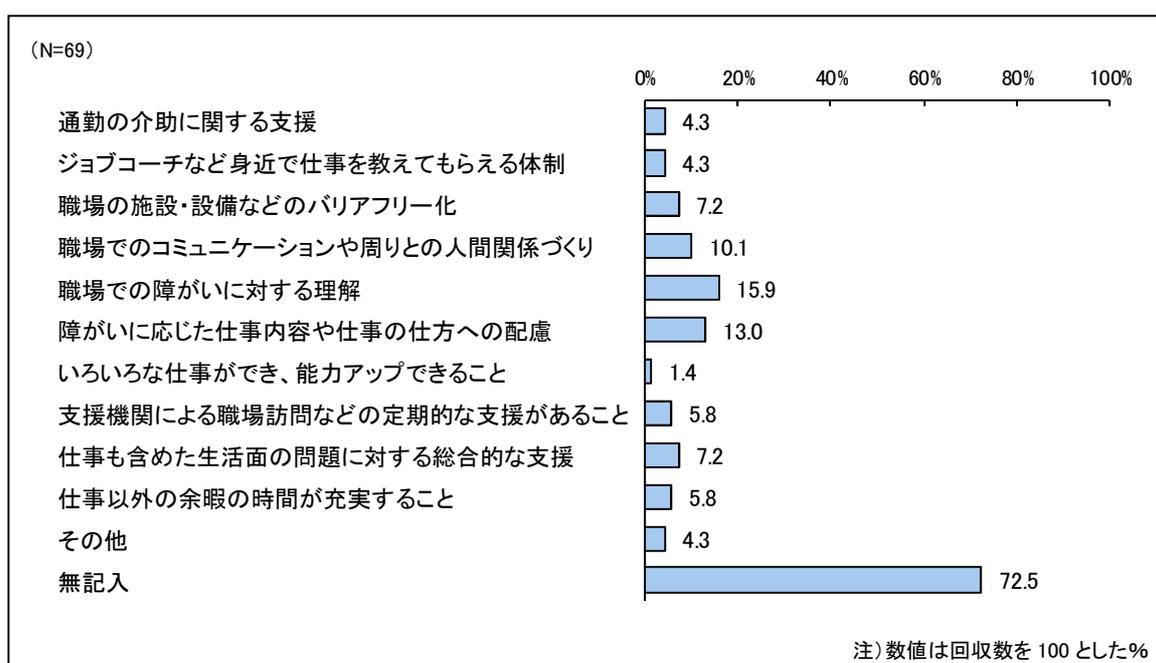
図表 問 3(3) 一般就労につながった、必要だと思うこと(MA)



### ④ 働き続けるために必要と思うこと

「職場での障がいに対する理解」(15.9%)が最も多く、次いで、「障がいに応じた仕事内容や仕事の仕方への配慮」(13.0%)、「職場でのコミュニケーションや周りとの人間関係づくり」(10.1%)が多い。

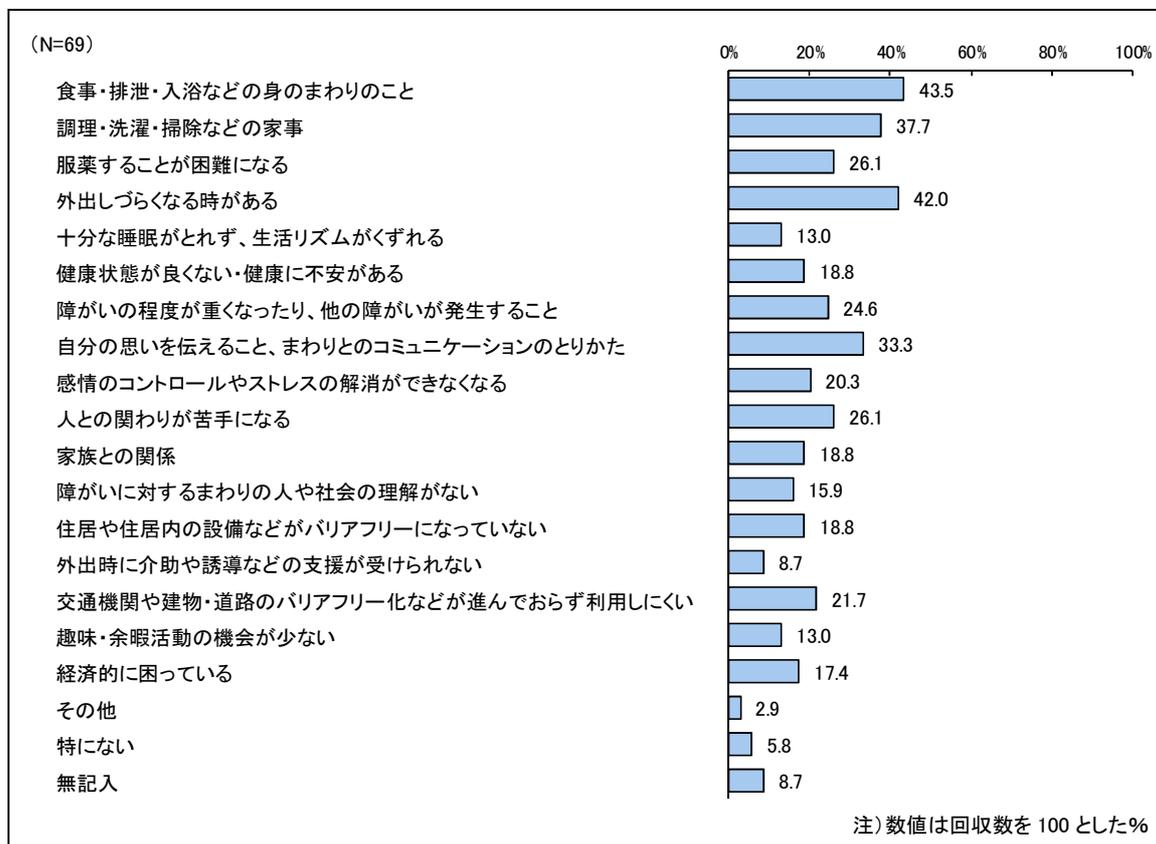
図表 問 3(4) 働き続けるために必要と思うこと(MA)



⑤ 障がいによって困っていること

「食事・排泄・入浴などの身のまわりのこと」(43.5%)、「外出しづらくなる時がある」(42.0%)が4割台と多い。以下、「調理・洗濯・掃除などの家事」(37.7%)、「自分の思いを伝えること、まわりとのコミュニケーションのとりかた」(33.3%)と続く。

図表 問3(5) 障がいによって困っていること(MA)

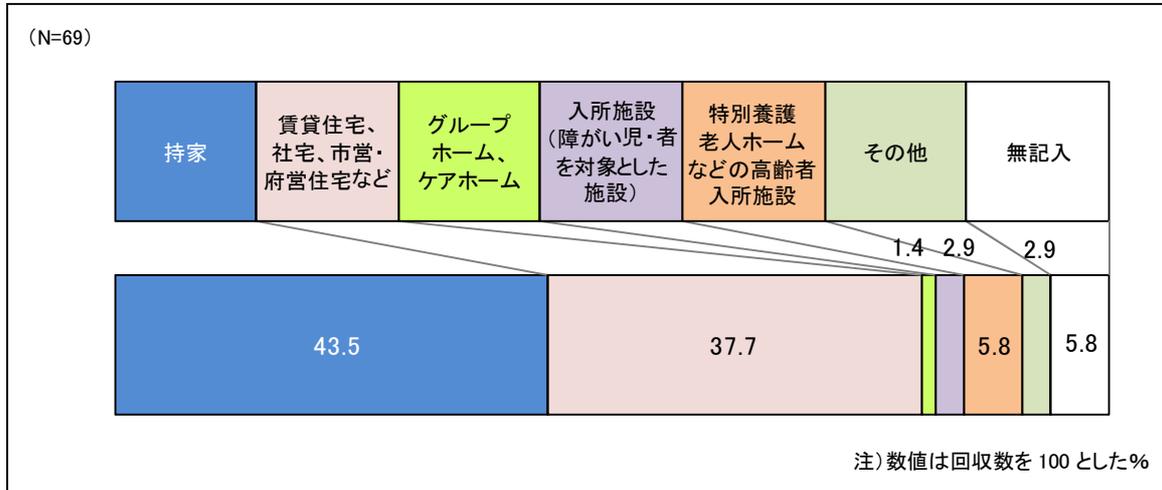


#### (4) 住まいについて

##### ① 住まいの場所

「持家」(43.5%)、「賃貸住宅、社宅、市営・府営住宅など」(37.7%)で約 8 割を占める。

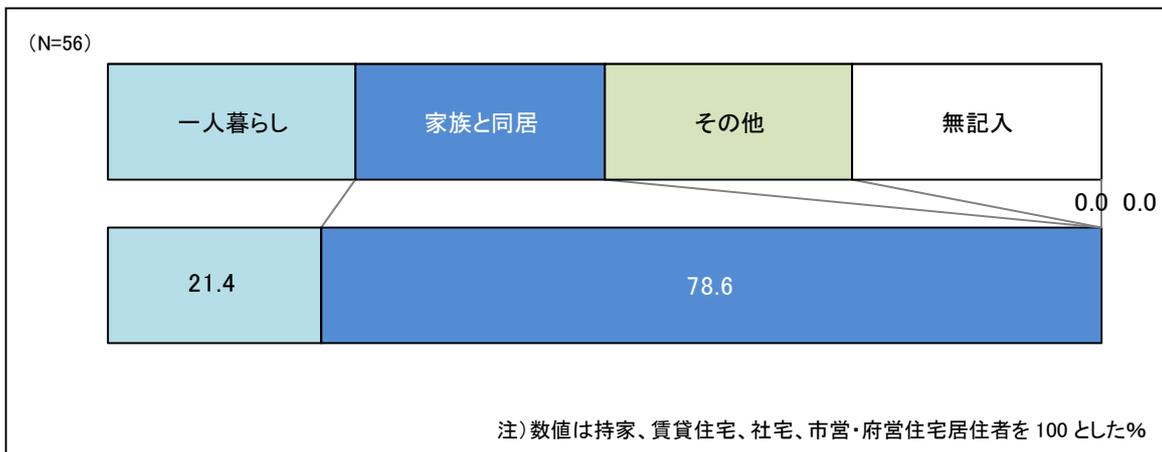
図表 問 4(1) 住まいの場所(SA)



##### ② 世帯形態

「持家」または「賃貸住宅、社宅、市営・府営住宅など」に居住している方のうち、約 8 割(78.6%)が「家族と同居」している。

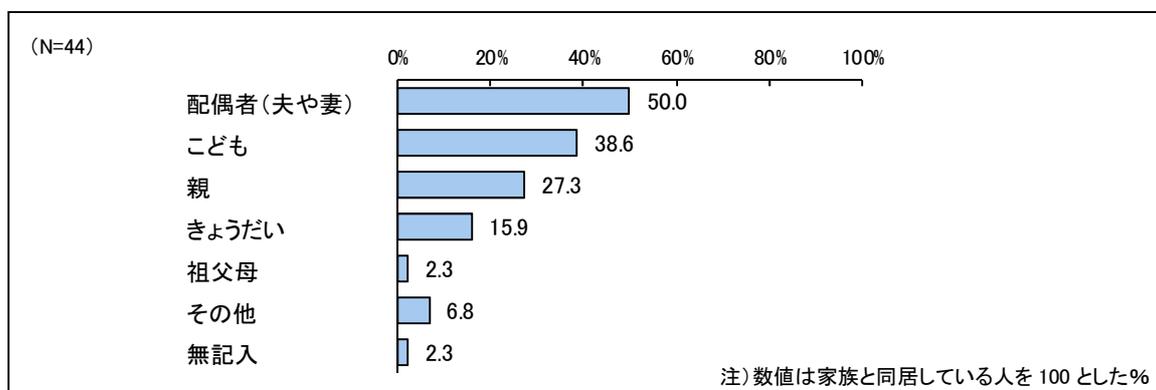
図表 問 4(2)① 世帯形態(SA)



### ③ 同居者

「配偶者(夫や妻)」(50.0%)が最も多く、次いで、「子ども」(38.6%)、「親」(27.3%)が多い。

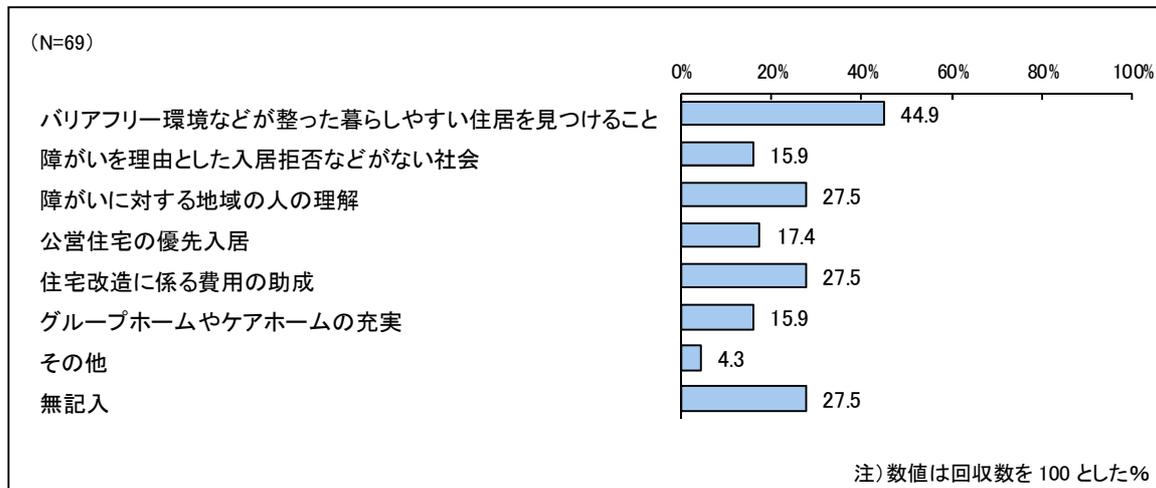
図表 問4(2)② 同居者(MA)



### ④ 住まいの場を確保するのに必要と思うこと

「バリアフリー環境などが整った暮らしやすい住居を見つけること」(44.9%)が最も多く、次いで「障がいに対する地域の人の理解」「住宅改造に係る費用の助成」(各 27.5%)が多い。

図表 問4(3) 住まいの場を確保するのに必要と思うこと(MA)

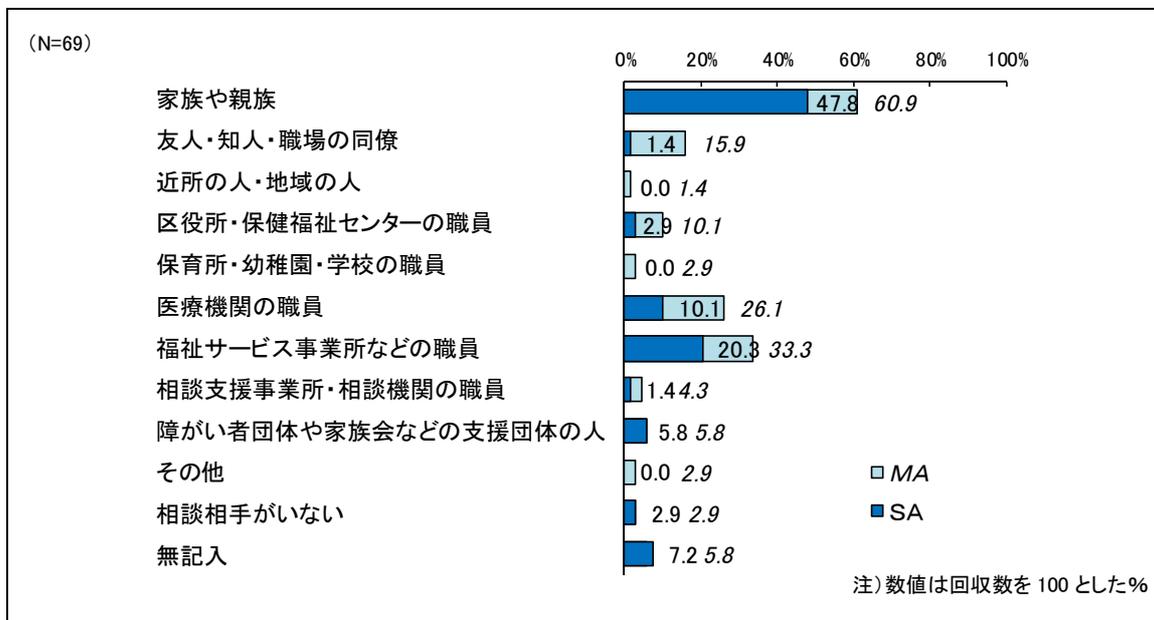


## (5) 相談先や情報の入手について

### ① 普段の相談相手

複数・単一回答ともに、「家族や親族」が最も多く(MA:60.9%、SA:47.8%)、次いで、「福祉サービス事業所などの職員」(MA:33.3%、SA:20.3%)が多い。「相談相手がいない」と回答した方は2.9%。

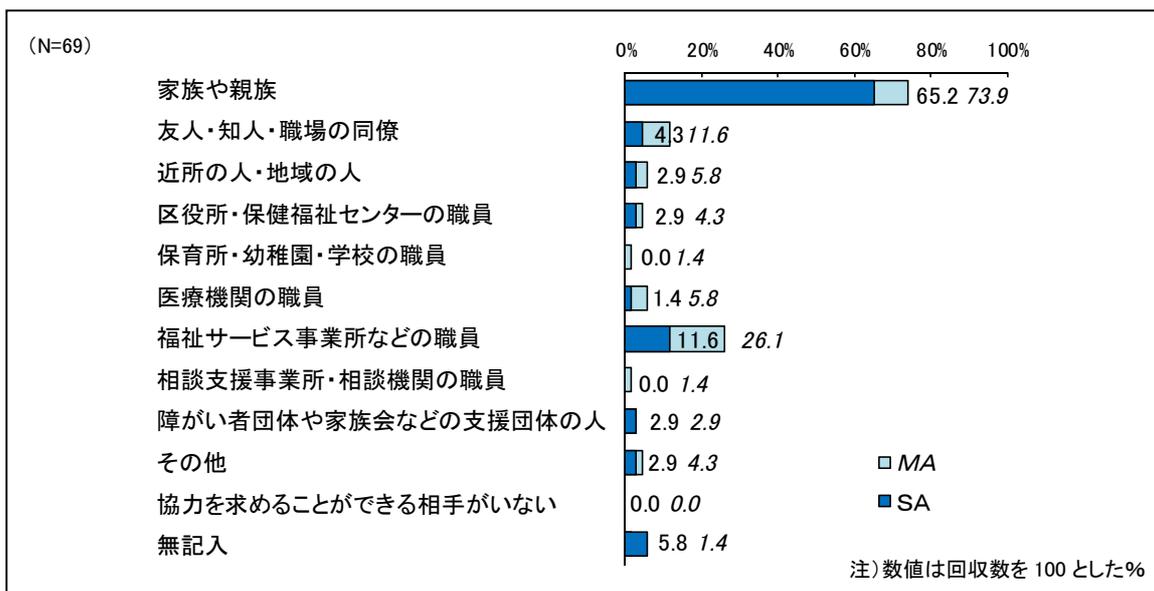
図表 問5(1) 普段の相談相手(MA/SA)



### ② 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手

複数・単一回答ともに、「家族や親族」(MA:73.9%、SA:65.2%)が最も多く、次いで、「福祉サービス事業所などの職員」(MA:26.1%、SA:11.6%)が多い。

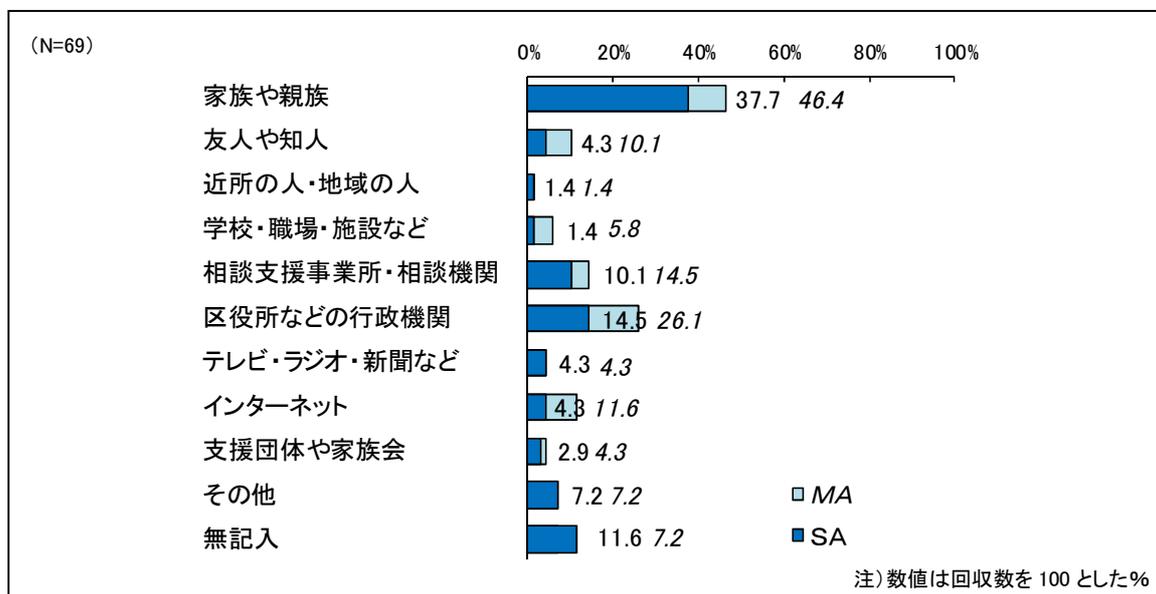
図表 問5(2) 災害時などの緊急時に協力を求めることができる相手(MA/SA)



### ③ 福祉に関する情報の入手源

「家族や親族」(MA:46.4%、SA:37.7%)が最も多く、次いで、「区役所などの行政機関」(MA:26.1%、SA:14.5%)が多い。

図表 問5(3) 福祉に関する情報の入手源(MA/SA)

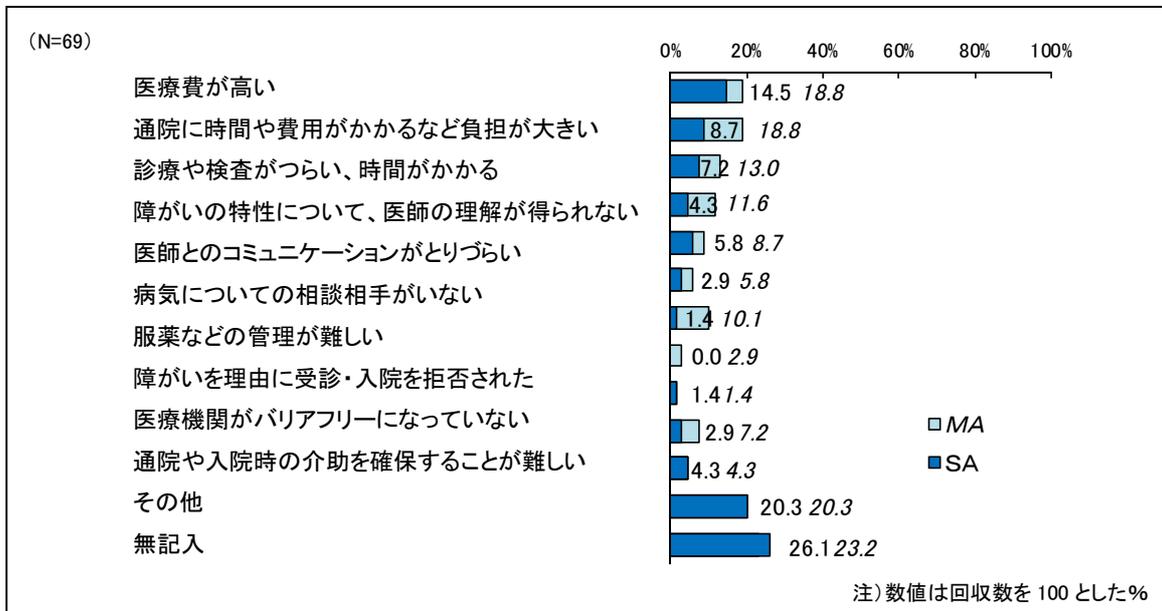


## (6) 医療・高次脳機能障がいのことについて

### ① 医療に関する困りごと

「医療費が多い」(MA:18.8%、SA:14.5%)、「通院に時間や費用がかかるなど負担が大きい」(MA:18.8%、SA:8.7%)が上位にあがっている。

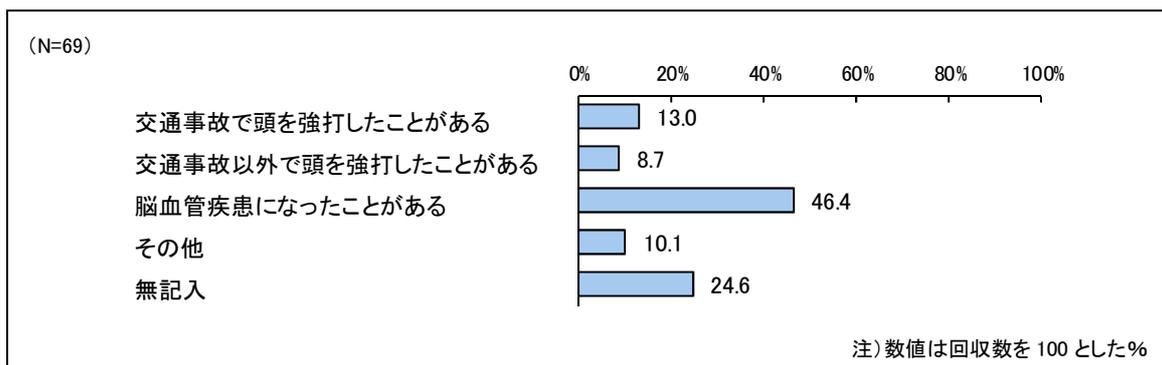
図表 問 6(1) 医療に関する困りごと(MA/SA)



### ② 頭を強打したり脳血管疾患の経験

「脳血管疾患になったことがある」(46.4%)が最も多い。

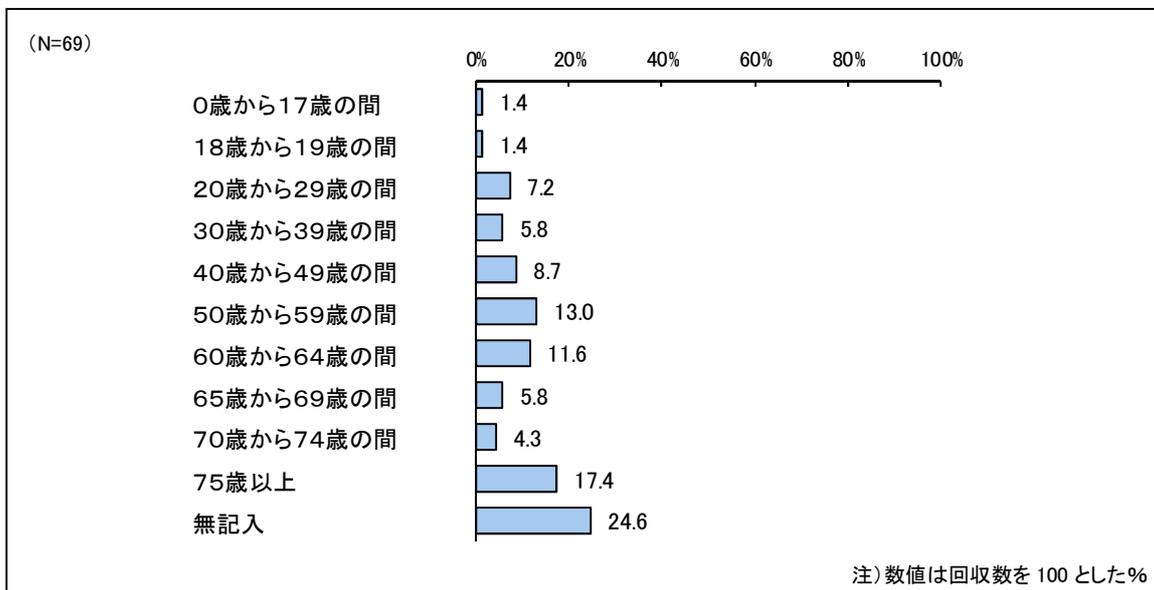
図表 問 6(2) 頭を強打したり脳血管疾患の経験(MA)



### ③ 出来事があった時期

「75歳以上」(17.4%)が最も多く、次いで、「50歳から59歳の間」(13.0%)、「60歳から64歳の間」(11.6%)が多い。

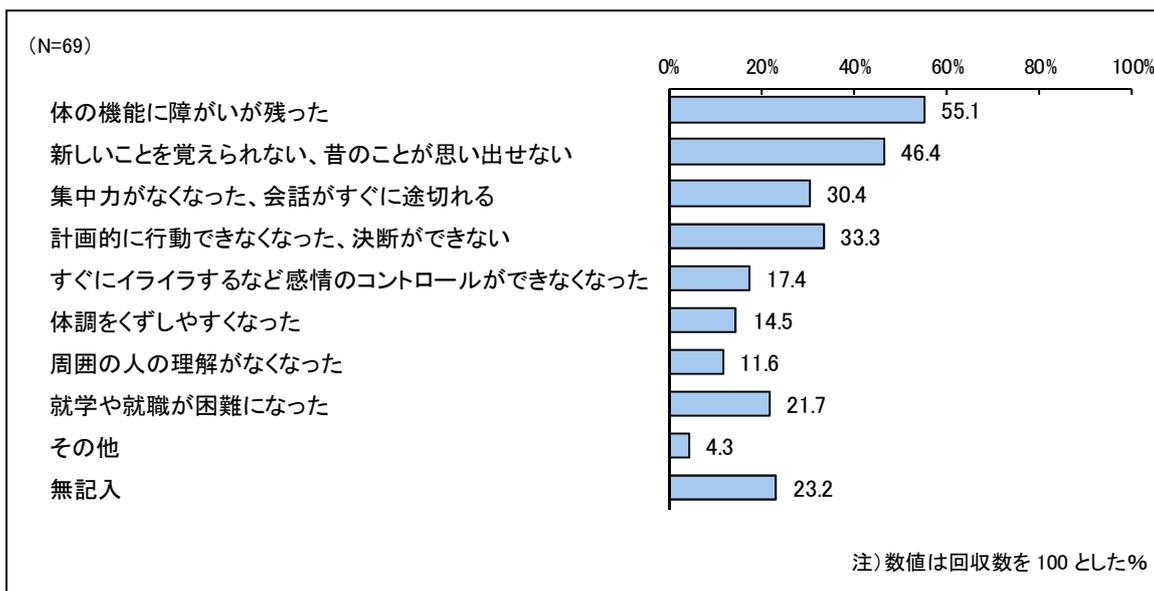
図表 問6(3) 出来事があった時期(MA)



### ④ 高次脳で困っていること

「体の機能に障がいが残った」(55.1%)が最も多く、次いで、「新しいことをおぼえられない、昔のことが思い出せない」(46.4%)、「計画的に行動できなくなった、決断ができない」(33.3%)、「集中力がなくなった、会話がすぐに途切れる」(30.4%)が多い。

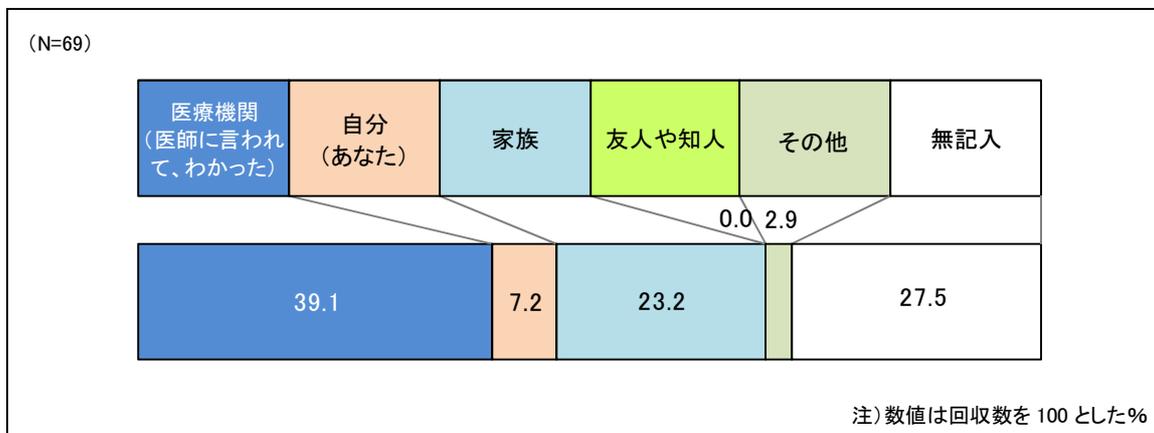
図表 問6(4) 高次脳で困っていること(MA)



⑤ 高次脳であると感じたり気がついたのは誰か

「医療機関(医師に言われて、わかった)」(39.1%)が最も多く、次いで、「家族」(23.2%)が多い。「自分」で気がついたのは 7.2%にとどまる。

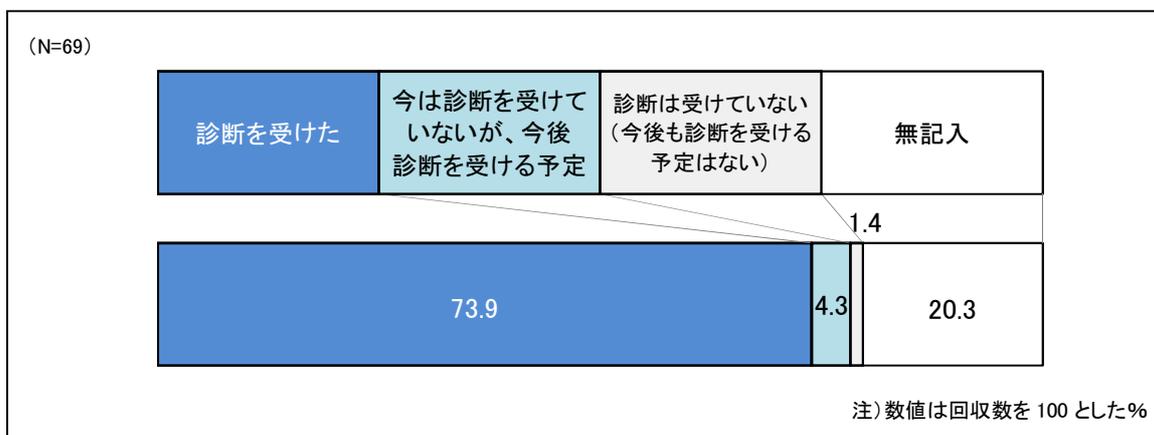
図表 問 6(5) 高次脳であると感じたり気がついたのは誰か(SA)



⑥ 診断の有無

全体の 3/4(73.9%)が「診断を受けた」と回答。

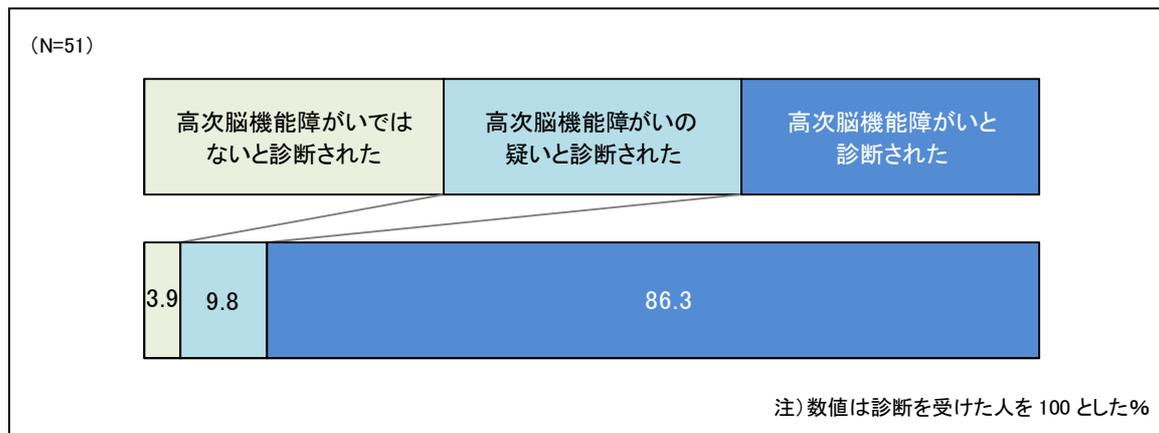
図表 問 6(6) 診断の有無(SA)



## ⑦ 診断の結果

診断を受けた結果、9割以上が「高次脳機能障がい」(86.3%)、もしくは「高次脳機能障がいの疑い」(9.8%)と診断されたと回答。

図表 問6(7) 診断の結果(SA)

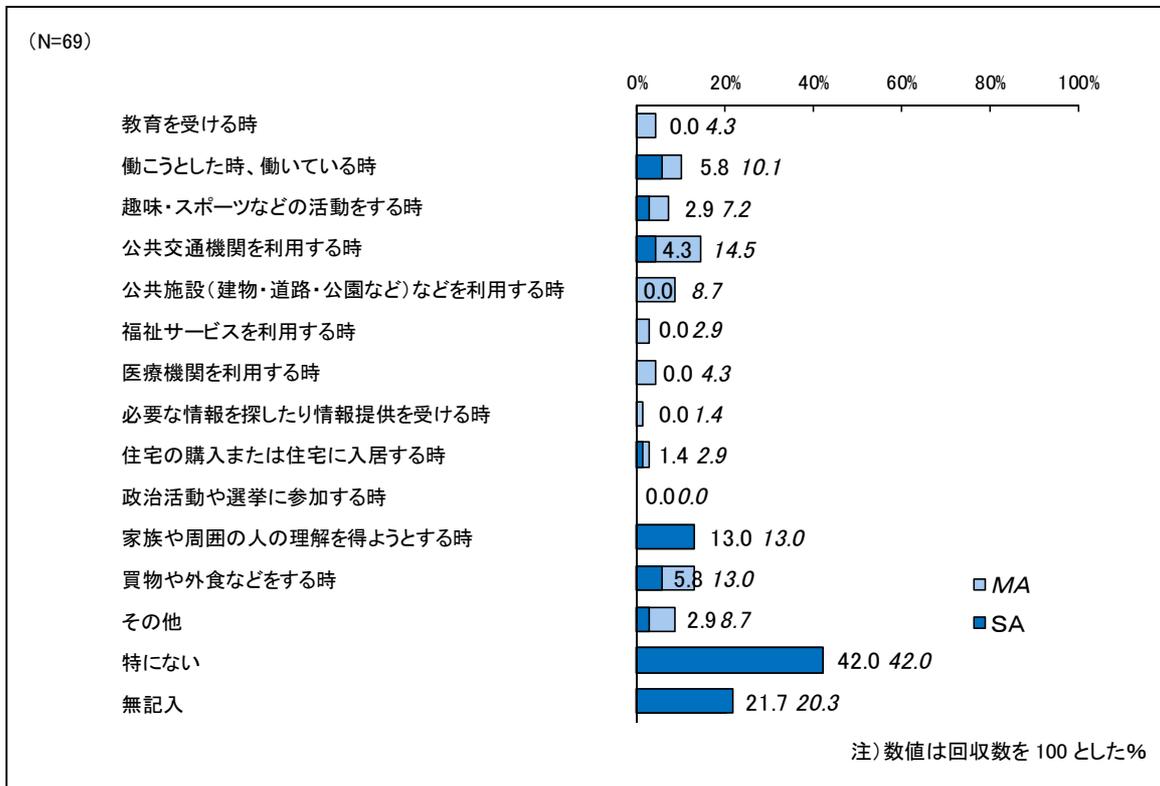


## (7) 障がい者施設全般について

### ① 障がいを理由に不快と感じた時

複数回答では、「公共交通機関を利用する時」(14.5%)、単一回答では、「家族や周囲の人の理解を得ようとする時」(13.0%)が最も多い。

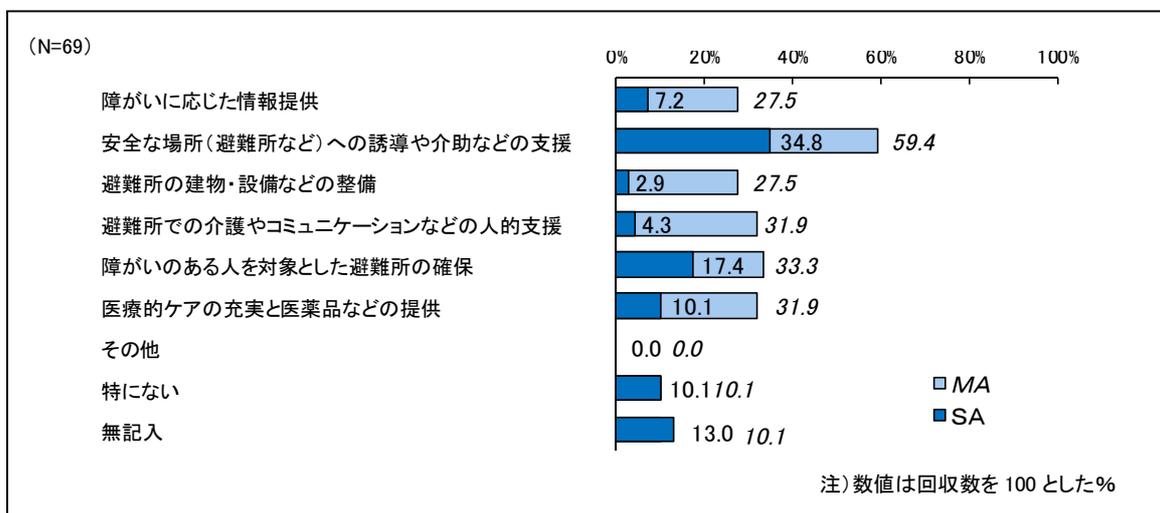
図表 問 7(1) 障がいを理由に不快と感じた時(MA/SA)



### ② 災害時に必要と思うこと

複数・単一回答ともに、「安全な場所(避難所など)への誘導や介助などの支援」(MA:59.4%、SA:34.8%)が最も多い。

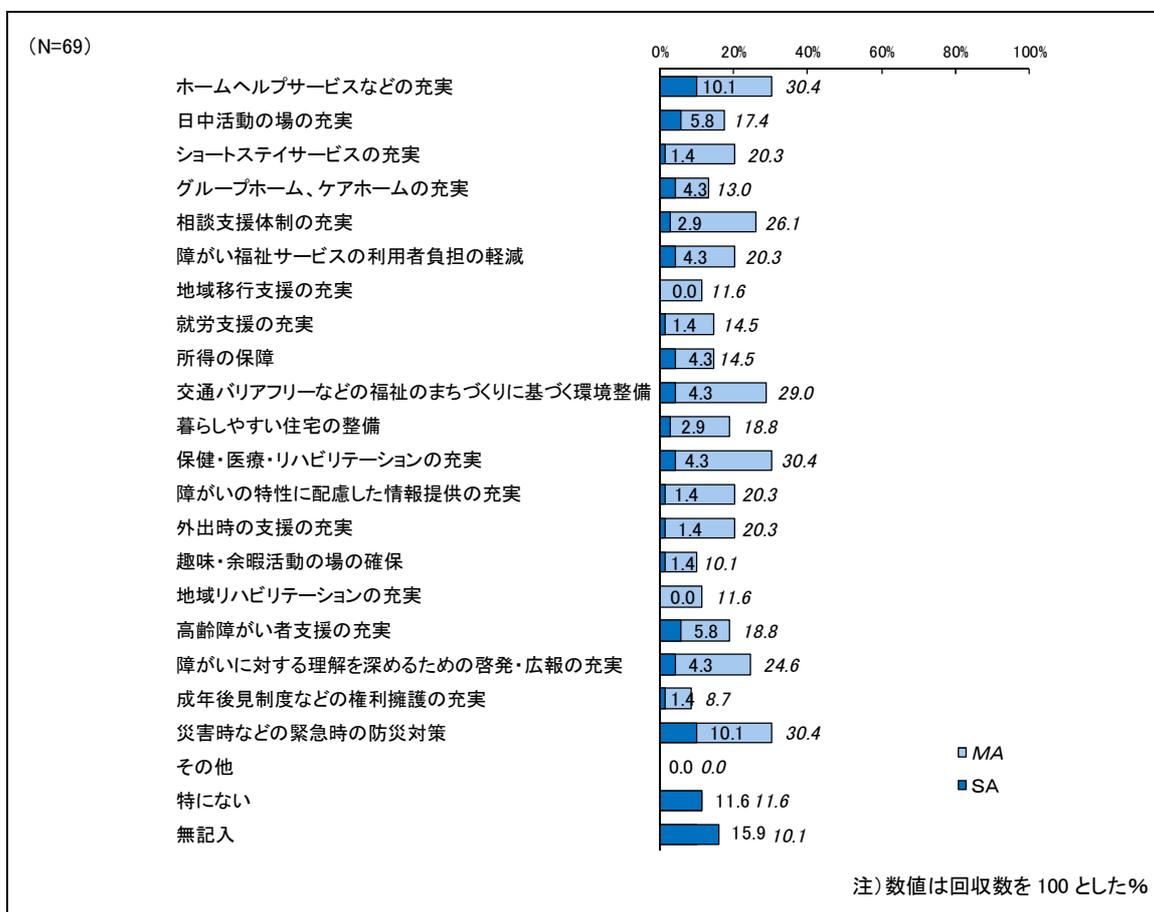
図表 問 7(2) 災害時に必要と思うこと(MA/SA)



### ③ 障がい者施策全般について望むこと

複数・単一回答ともに、「ホームヘルプサービスなどの充実」「保健・医療・リハビリテーションの充実」「災害時などの緊急時の防災対策」(MA:30.4%、SA:10.1%)が最も多い。「保健・医療・リハビリテーションの充実」は複数回答では30.4%と最も多いが、単一回答では4.3%にとどまる。

図表 問7(3) 障がい者施策全般について望むこと(MA/SA)



#### ④ 障がい者施策全般についての意見

障がい者施策全般についての意見を聞いたところ、様々な意見が寄せられたが、紙面の都合上、主な意見を要約して掲載。

図表 問 7(4) 障がい者施策全般についての意見

- ・ 障がい者に対する理解は増えてきているが、周りの人の言葉の暴力で傷つくことが多い。いろいろな特性の方がいることを理解してもらいたい。核社会になってきているので、地域で守ることが難しい。一人で抱え込まないでみなで協力し合って、住みやすい環境づくりになってほしい。情報が少なく、自分で探さないとだめな状況、周りの人たちがフォローできるような体制になればいいです。
- ・ 老人会、自治会で近所の障がい者の状況や気づきの勉強会をしてくださって、理解していただき、援助の声掛けを呼びかけて頂きたい。老人介護で悩んでいる仲間の交流会がほしい。
- ・ 大阪市で高次脳機能障がい者も雇用してください。一概に働けないと決め付けしないで、ひとりひとりの能力を見極めることが出来るからこそその自治体の役割ではないでしょうか。
- ・ 車椅子を押していると両手が使えないので片手でもいけるようなものを考えてほしい
- ・ リハビリは急性期だけと言いますが、現状を維持するにはリハビリが必要です。ですが変実（？）にリハビリできる所は少なくあきらめる人も多いです。高次脳機能障がいの人を受け入れるデイサービスなどふやしてほしいと思います。
- ・ 高次脳障がいにて大阪市の病院で入院中ですが、大阪市と市外とではいろいろな点で違うので、大阪市と同様な施策にしてほしいです。障がい手帳を発行していただくにの（診察）市外の病院指定病院までいかねばならない、本人は動くことができないので、大阪市と同様に病院の先生（指定病院）が入院中の病院に来てもらってほしいと思います
- ・ 脳梗塞の発症当初は病気のこととそれを相談するところも分からず悩みました。その経験で思ったことはもっと病名や症状を初期に教えてほしいことです。症状は個人によって違うので対応の難しさはあるのですが退院後の家庭での生活のサポートがあればと思います。
- ・ ケガをした後、高次脳と認識するまで時間がかかりすぎて今さら就労もリハビリも間に合わない。周囲の理解もいまち進んでいないしあきらめ感がある。自分ひとりで生活できないので、今後は家族が高齢になったときの対策が課題。

## ⑤ 調査票記入者

図表 問7(5) 記入者

